

年報

津山弥生の里

第 22 号 (平成 25 年度)

2015

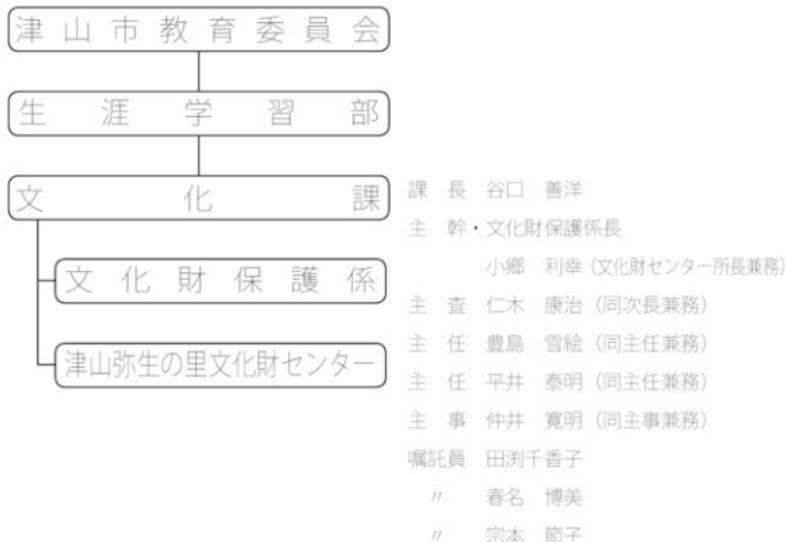
津山弥生の里文化財センター

目 次

機構図及び職員配置・例言 ii

第I部 津山弥生の里文化財センター事業概要	1
I-A 展示事業	3
I-A-1 入館者数	3
I-A-2 啓発、普及活動	3
I-A-3 寄贈資料	6
I-B 文化財センター日誌抄（平成25年度）	7
I-C 埋蔵文化財発掘調査	9
I-C-1 平成25年度届出関係一覧	9
I-C-2 現地説明会	10
第II部 調査の概要	11
II-A 市内遺跡試掘・確認調査報告	13
II-A-1 旧津山藩別邸庭園（衆楽園）確認調査	13
II-A-2 美作国府跡確認調査	16
II-A-3 中原遺跡確認調査	22
II-A-4 銚場古墳測量調査	25
II-A-5 犀園千人塚古墳測量調査	27
II-A-6 城塔上1号墳測量調査	28
第III部 文化財の保護・管理	29
III-A 文化財の保護	31
III-A-1 文化財保護委員会	31
III-A-2 新指定・選定の文化財	31
III-A-3 文化財防火訓練	31
III-B 指定文化財の保存管理	31
III-B-1 国指定文化財	31
III-B-2 県指定文化財	32
III-B-3 市指定文化財	32
III-B-4 その他の文化財	32
III-C 歴史民俗資料館の管理運営	32
III-C-1 加茂町歴史民俗資料館	32
III-C-2 勝北歴史民俗資料館	32
III-C-3 久米歴史民俗資料館・民具館	32
III-C-4 阿波民具館	32
III-D その他	32
第IV部 資料紹介・研究ノート	33
IV-A 美作国における初期黄檗派の展開についての一考察	35
IV-B 美作の狛犬（6）	41

平成 25 年度機構図及び職員配置



例　　言

1. 本書は、津山市教育委員会生涯學習部文化課（文化財保護係）が平成 25 年度に実施した事業概要などについてまとめたものである。
1. 平成 25 年度の埋蔵文化財発掘調査は、小郷利幸、仁木康治、豊島雪絵、平井泰明、仲井寛明、出土遺物の整理は上記の他、田渕千香子、春名博美、宗本節子が担当した。指定文化財の保存管理事業は仲井寛明が主として担当した。本書の執筆は各担当者が行なった。
1. 本書のデータは、PDF フォーマットで保管している。

第Ⅰ部
津山弥生の里文化財センター
事業概要

A. 展示事業

1. 入館者数

平成 25 年度の入館者数は下表のとおりである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大人	74	161	228	63	68	31	149	150	29	37	47	60	1,097
子供	118	179	126	9	21	10	69	191	2	92	136	52	1,005
合計	192	340	354	72	89	41	218	341	31	129	183	112	2,102

表1 平成 25 年度総利用者数内訳

2. 啓発、普及活動

【刊行物】

『年報 津山弥生の里 第 21 号』

『市内遺跡発掘調査報告書』津山市埋蔵文化財発掘調

査報告第 83 集

【講演会など】

「美作国建国 1300 年記念事業」に関連し、各種の関連事業を実施した。

◇第 9 回全国国分寺サミット 2013in 美作国分寺

日 時 平成 25 年 10 月 12 日 (土)

13:30 ~ 16:40 (参加者 300 名)

(13 日 : 現地見学会、参加者 50 名)

場 所 ベルフォーレ津山

内 容

パネルディスカッション

「文化財を活かしたまちづくり」 参加 10 自治体
講 演

「国分寺建立の意義」

奈良文化財研究所名誉研究員 狩野 久さん



第 9 回全国国分寺サミット 2013in 美作国分寺大会

◇史跡美作国分寺跡平面表示事業

日 時 平成 25 年 10 月

場 所 史跡美作国分寺跡 (現地)

内 容

美作国分寺跡の伽藍配置を花の植栽により表示



植栽のようす (中門付近から金堂・講堂方向を見る)



現地見学会 (10 月 13 日)

◇シンポジウム「陶棺の謎に迫る」

日 時 平成 25 年 10 月 27 日 (日)

13:30 ~ 16:40 (参加者 200 名)

場 所 勝北文化センター

内 容

講演 1 「美作の陶棺について」

津山弥生の里文化財センター 豊島雪絵さん

講演 2 「近畿地域の陶棺について」

奈良県立橿原考古学研究所 編島 歩さん

講演 3 「陶棺の製作背景と地域性」

岡山大学大学院 光本 順さん

パネルディスカッション コーディネーター

岡山県教育庁文化財課 尾上元規さん



シンポジウム「陶棺の謎に迫る」

◇陶棺プロジェクト - 実大陶棺の復元 -

日 時 平成 25 年 6 月 ~ 10 月

場 所 勝北陶芸の里

内 容

水原古墳出土陶棺（東京国立博物館蔵）の実大レプリカを粘土採集から焼成まで実験的に復元、製作



復元陶棺の製作



復元陶棺の除幕式（勝北文化センター 10 月 27 日）

◇第 32 回津山市文化財調査報告会

日 時 平成 26 年 3 月 1 日 (土)

13:30 ~ 16:30 (参加者 100 名)

場 所 グリーンヒルズ津山 リージョンセンター

内 容

報告 1 「美作の幕領に関する資料について」

津山郷土博物館学芸員 東 万里子さん

報告 2 「羽柴秀吉の禁制状と黒田官兵衛の書状」

津山郷土博物館学芸員 梶村明慶さん

講演「陶棺を復元して」

勝北陶芸の里工房指導員 花岡 勉さん



第 32 回文化財調査報告会

◇新訂増補「美作略史」刊行記念講演会

日 時 平成 26 年 3 月 9 日 (日)

13:30 ~ 15:30 (参加者 60 名)

場 所 津山郷土博物館研修室

内 容

講演「美作略史雑談」

元ノートルダム清心女子大学教授 三好基之さん

「美作略史」の執筆に関する話や、研究により明らかになった古代・中世の美作国について講演



講演会 「美作略史雑談」

【外部講演】

開催日	演題等	講師	会場と参加者
4/5 (金)	「みまさか」の国ができるまで	仁木康治	津山市立図書館 25名
4/7 (土)	海相のはなし	平井泰明	備北文化センター 100名
4/28 (日)	吉原郷跡の保存について	仁木康治	大久野島ふれあい会館 48名
4/28 (日)	歴史探訪ウォーキング	小畠利幸	美和山古墳群ほか 59名
5/15 (水)	美作国建国 1300年について	仁木康治	道長公会堂 25名
5/23 (木)	美作国建国 1300年について	小畠利幸	西六点公会堂 24名
6/2 (火)	中央支那ウォーキング	小畠利幸	庭月、美作国郷跡ほか 45名
6/15 (土)	美作国の歴史を学ぼう	仁木康治	久米文庫 37名
6/21 (金)	黒羽遺跡・城山遺跡 発掘調査報告会	平井泰明	久米公民館 74名
8/28 (水)	都と美作	仁木康治	美作大学 20名
8/31 (土)	美作の海相について	島島雪絵	美作大学 20名
9/7 (土)	黒羽遺跡	平井泰明	岡山立博物館 100名
9/7 (土)	津山城跡	島島雪絵	岡山立博物館 100名
9/20 (金)	みまさかの国ができるまで	仁木康治	あわくら会館 48名
10/1 (火)	清浪地区の文化財	仲井賀明	清浪公民館 30名
10/27 (火)	歴史のひ二日地域	仁木康治	二日公民館 60名
11/6 (水)	史跡津山城跡をめぐる	島島雪絵	津山城跡 13名
11/10 (日)	秋の文化財めぐり	小畠利幸	山神社・郷社ほか 41名
11/17 (日)	美作の海相について	島島雪絵	津山市総合福祉会館 190名
11/17 (日)	美作の郷跡について	島島雪絵	アシタ津山 43名
11/30 (日)	山城を地域に活かす	小畠利幸	ベンタホール 200名
2/17 (火)	美作国の歴史について	仁木康治	津山市公民館 80名
2/18 (水)	岡山市東広島館ウォーキング	仁木康治	久米史実館の資料館ほか 28名
2/23 (火)	隠跡から見た津山の歴史	小畠利幸	中央公民館 90名
3/23 (火)	さざら山の古道を駆けて歩こう	小畠利幸	中田古墳ほか 70名

【研究会】

美作考古学談話会（会員 15 名）

	日時	演題	講師	参加者
第1回	6/1 (土)	「國分寺」 ・発掘調査からわかること	平井泰明	8名
第2回	7/6 (土)	美物大の胸相 復元作業見学会	島島雪絵	4名
第3回	10/5 (土)	復元陶棺の焼成前見学会	島島雪絵	9名
第4回	12/7 (土)	「古代の國家事業」	仁木康治	8名
第5回	1/11 (土)	「美作国の建国を考える」	小畠利幸	6名
第6回	3/29 (土)	「三好山藩別邸庭園（樂樂園） 確認調査について」	仲井賀明	5名

【速報屋】

発掘調査速報展

『津山の歴史を掘る - 美作国建国 1300 年記念 -』

◇美作国府跡：須恵器（杯蓋・身・「苦」印）、土師器

皿・軒丸瓦、円面鏡、綠釉陶器

◇美作国分寺跡：軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、博

◇中宮 1 号墳：円筒埴輪、鉄鎌、馬具（轡、鋸、雲珠
鏡板）

◇六ツ塚古墳群：円筒埴輪

【収蔵資料の貸し出し】

資料名	相手方	期間	貸出理由
久米寺塔跡片一 括 1・作国府内蔵 柄円筒埴輪 1 面・刻 印 1 個 1 点・鏡 陶器 1 抹・美作國 分寺跡軒丸・軒平 瓦 1 個	岡山県立美術館	H25.5.21 ~ H25.7.20	特別展 「美作国建国 1300 年記念協賛展 美 作の美術」
火おこし器 8 点	広野小学校	H25.4.26 ~ H25.5.2	授業
柳谷古墳陪塚象嵌圓 鏡 1 枚・軒平鏡 1 枚 点・同銅鏡貝具 1 点・重環 1 点・重 環 7 点・全體写 真・作国府内蔵 柄円筒埴輪 1 面・ 刻印 1 個 1 点・軒 丸瓦 2 点・輪扁 6 点・方鏡大刀 3 点	岡山県立博物館	H25.7.9 ~ H25.9.15	企画展 「美作の名宝」
津山立博物館 軒丸瓦 2 点・軒平瓦 2 点・ 黒羽遺跡出土 1 棒 1 点・須恵器 1 点・ 土師器 1 点・等真	津山県立博物館	H25.9.5 ~ H25.10.6	特別陳列 「大歴からの便り 2013」
黒曜石 (山ノ上遺 跡 1 点・野村高尾 遺跡 5 点・大日御 屋敷跡 1 点・中宮 1 点・須恵器 2 点・ 荒神山遺跡 1 点・ 宮代遺跡 3 点・法 事院地区 1 点)	津山理科大学生 地質学部 白石 篤	H25.9.17 ~ H25.10.22	学術研究
系革 1 点	個人	H25.11.1 ~ H25.11.5	城東音まつり

【収蔵資料の特別利用】

申請者	資料名	利用内容	出版物等
個人	美作国跡から出土した昆虫遺体約10点	画像閲覧	『倉敷市立自然史博物館研究報告第29号』
株式会社 五藤光学研究所	ケズレ塚古墳陶棺・寺山古墳陶棺・西吉田北1号墳 鉄船・繩、柳谷古墳出土遺物、美和山1号墳遺景、 橋本塚1号墳航空写真	画像掲載	岡山県生涯学習センター「ラネタリウム 映像番組『晴れの国おかやま』(美作・歴史編)」
岡山県教育委員会	美作国跡 SB101・軒丸瓦・円面瓦・少日・墨書き土器、 美作国跡寺跡塔跡航空写真・軒丸・軒平瓦、久米廻 寺軒丸瓦・塑像物・埴込	画像閲覧	『古代美作の文化財をたずねる』
個人	的場2号墳雲珠・杏葉・辻金具・革金具・鉢貝・万 燈山古墳雲珠・辻金具・佛	熟覧、写真撮影	修士論文
株式会社テレビ津山	DVD「よみがえる津山城」・「津山城再現CG」	テレビ映像	番組「津山城天守復元みんなで模擬天守 を作ろう」
NHK 津山報道室	DVD「よみがえる津山城」	テレビ映像	NHK 岡山ニュース番組
たつの市教育委員会	陶棺(ケズレ塚古墳)	画像閲覧	たつの市埋蔵文化財センター企画展「因 幡街道」図録等
株式会社 ジャパン通信センター	城山遺跡	画像等掲載	『文化財発掘出土情報』2013年11月号
有限会社樹林舎	写真資料	画像掲載	『津山・美作今昔写真集』
テレビ朝日映像株式会社	DVD「楊野と紙製作技術」・森忠政公坐像(本源寺蔵)、 DVD「津山城再現CG」	テレビ映像	BS朝日「歴史発見 城下町へ行こう」
個人	トラフダケ画像	画像閲覧	ブログ掲載
個人	鰐坂地内遭跡縄文土器68点、鰐坂地区試掘調査縄 文土器61点	熟覧、写真撮影	論文作成
個人	万燈山古墳陶棺・空玉	写真撮影	『年報津山弥生の里 第21号』
個人	田熊の算額	写真	調査研究
津山商工会議所	津山城CGを航空写真に合成した写真	画像閲覧	津山朝日新聞掲載(平成26年3月11日)
(公財)岡山県郷土文化財団	「少日」墨書き土器、美作国分寺塔基壇・美作国府推 定範囲図、美作国分寺跡伽藍配置図	画像掲載	佐藤信「『美作国造國と律合國家』『岡山 の自然と文化』33号』
株式会社続壳旅行出版社	津山城(備中櫓)写真	画像閲覧	丹舟「続壳旅行」4月号
岡山県知事	津山城 鶴山公園写真	画像掲載	地方自治法施行60周年記念貨幣セット

3. 寄贈資料

下記資料の寄贈がありました。寄贈いただいた資料は文化財センター資料として保存活用させていただきます。

寄贈者	寄贈資料
個人	鶴山焼1点、鉄兜1点、釘隠1点、鏡印1点
個人	土器片2点、襷1点、解風7点
個人	桶1点

B. 文化財センター日誌抄 (平成 25 年度)

- 4月 5 日 市立図書館で、「『みまさか』の国ができるまで」を講演（仁木）
- 4月 7 日 勝北文化協会春の文化祭で「陶棺のはなし」を講演（平井）
- 4月 8 日 障害者に史跡津山城跡を開放するための道路警備
- 4月 17 日 第 1 回陶棺復元プロジェクト会議を勝北公民館で開催（谷口・小郷・仁木・平井）
- 4月 28 日 岩屋城を守る会総会で、「岩屋城の保存について」を講演（谷口・仁木）
二宮連合町内会歴史探訪ウォーキングで美和山古墳群ほかを案内（小郷）
- 5月 15 日 近長公会堂で、「美作建国1300年について」を講演（仁木）
- 5月 23 日 西吉田公会堂で、「美作建国1300年について」を講演（小郷）
- 6月 1 日 愛山東照宮祭典、愛山東照宮奉賛会総会に出席（小郷）
第 1 回美作考古学談話会の開催（平井）
- 6月 2 日 中央支部連合町内会ウォーキングで美作國府跡ほかを案内（小郷）
- 6月 5 日 中道中学校チャレンジワーク（～7日）
- 6月 15 日 久米支所で、「美作国歴史を学ぼう」を講演（仁木）
- 6月 21 日 久米公民館で、「黒岩遺跡・城山遺跡発掘調査報告」を講演（平井）
- 6月 28 日 美作国分寺跡の遺構平面表示のため、河辺幼稚園・国分寺保育園児が花を植栽
- 7月 2 日 第 2 回陶棺復元プロジェクト会議を勝北陶芸の里で開催（谷口・豊島・平井）
- 7月 6 日 陶棺復元作業見学会を勝北陶芸の里で開催（谷口・豊島・平井）
- 7月 8 日 第 9 回全国国分寺サミット第 1 回実行委員会を河辺公民館で開催（谷口・小郷・仁木・仲井）
- 7月 11 日 陶棺復元作業見学会（新野・勝加茂・広戸小学校）を勝北陶芸の里で開催
- 7月 12 日 全国史跡整備市町村協議会中国地区協議会大会のため鳥取市に出張（～13日、豊島）
- 8月 7 日 津山ライオンズクラブによる沼彌生住居址群草刈、本源寺が国指定重要文化財に指定、津山市城東伝統的記念物群が重要伝統的建造物群保存地区に選定される
- 8月 9 日 岡山県史跡整備市町村協議会総会出席のため岡山市に出張（仲井）
- 8月 28 日 美作大学で「都と美作」を講演（仁木）
- 8月 31 日 美作大学で「美作の陶棺について」を講演（豊島）
- 9月 7 日 岡山県立博物館で「黒岩遺跡」「津山城跡」について解説（平井・豊島）
- 9月 20 日 あわくら会館で「みまさかの国ができるまで」を講演（仁木）
- 10月 1 日 清泉公民館で「清泉地区の文化財」を講演（仲井）
- 10月 5 日 第 3 回美作考古学談話会を開催（豊島）
- 10月 8 日 第 9 回全国国分寺サミット第 2 回実行委員会を河辺公民館で開催（谷口・仁木・仲井）
- 10月 12 日 第 9 回全国国分寺サミット 2013in 美作国分寺開催（～13日）



中道中チャレンジワーク



展示された美作国分寺の復元模型（国分寺サミット）

- 10月 23 日 文化庁西岡聰技官（建造物担当）菟田家住宅を調査（～24日）

10月27日 陶棺復元プロジェクトと美作の陶棺展シンポジウムを勝北文化センターで開催



陶棺の運搬作業（勝北文化センター）

二宮公民館で「歴史の中の二宮地域」を講演（仁木）

10月29日（公財）岡山県郷土文化財団主催の現地研修会で美作国分寺跡ほかを案内（小郷）

10月31日 第34回史跡津山城跡整備委員会開催

11月1日 第1回津山市文化財保護委員会開催

11月6日 岡山県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会「史跡津山城跡をめぐる」で案内（豊島）

11月10日 倉吉文化財協会「秋の文化財をめぐる」で中山神社ほかを案内（小郷）

11月12日 香川県埋蔵文化財センターボランティア研修で美作国府跡ほかを案内（仁木）

11月17日 岡山県川柳協会主催川柳大会で「美作の陶棺について」を津山市福祉会館で講演（豊島）

山陽新聞社歴史講座「美作の陶棺の謎に迫る」をアルネ津山で講演（豊島）

11月24日 岡山県民俗芸能大会を津山文化センターで開催

11月27日 津山市史自然風土・考古部会を開催

11月30日 津山市・美作の中世山城連絡協議会共催のシンポジウム「山城を地域に活かす」でパネラー（小郷）

12月7日 第4回美考古学談話会の開催（仁木）

1月11日 第5回美考古学談話会の開催（小郷）

1月15日 市議会観光振興議員連盟が苅田家住宅及び酒造場を視察

1月18日 文化庁記念物課 近江俊秀文化財調査官岩屋城跡現地指導

1月20日 岡山県史跡整備市町村協議会研修会を津山市で開催（谷口・小郷・豊島・仲井）
総社宮・鶴山八幡宮・箕作阮甫住宅で文化財防火査察（小郷・仲井）

1月21日 愛染寺・白加美神社・高野神社で文化財防火査察（小郷・仲井）

1月26日 千磐神社で文化財防火訓練（谷口・小郷・仲井）

1月30日 第9回全国国分寺サミット第3回実行委員会を河辺公民館で開催（谷口・小郷・仁木・仲井）

2月12日 第3回陶棺復元プロジェクト会議を勝北支所で開催（谷口・小郷・豊島・平井）

2月17日 勝央町公民館で「美作国の歴史について」を講演（仁木）

2月18日 岡山市東公民館ウォーキングクラブ視察で久米庵寺ほかを案内（仁木）

2月22日 史跡津山城跡冠木門発掘調査現地説明会開催（50名）

2月23日 中央公民館文化祭で「遺跡から見た津山の歴史」を講演（小郷）

2月24日 津山市史自然風土・考古部会を開催

3月1日 第32回津山市文化財調査報告会をリージョンセンター・ペンタホールで開催（100名）

3月4日 津山やよいライオンズクラブ45周年記念植樹を沼弥生住居跡群で実施

3月9日 三好基之先生による記念講演会「美作略史雑談」を郷土博物館で開催（60名）

3月19日 第35回史跡津山城整備委員会開催

3月20日 第2回津山市文化財保護委員会開催

3月23日 佐良山未来ビジョン研究会主催「さら山の古墳を訪ねて歩こう」で、中宮古墳ほかを案内（小郷）

3月29日 第6回美考古学談話会の開催（仲井）

3月30日 史跡美作国分寺跡公有化事業地元説明会

C. 埋蔵文化財発掘調査

1. 平成 25 年度届出関係一覧

埋蔵文化財発掘の届出（法第 93 条）

道跡名	所在地	工事種別	期間	面積 (m ²)	済市発掘調査委員会	発信日	指示事項	実施日	備考
山形古墳群寺道跡	山北 206-5	個人住宅	6.21～8.21	297.52	第 113 号	4.3	立会	5.30	道構・遺物無し
二宮山尼屋始造跡	二宮 1177-1	その他開発	6.10～7.30	1059	第 232 号	4.9	慎重	-	
美作国府跡	蛭社 77-1	内職	6.1～7.20	3,758.38	第 292 号	4.12	立会	7.1	道構・遺物無し
高野本尊西宮下道跡	高野山西 51-2	個人住宅	6.10～1.15	386	第 386 号	4.16	立会	11.8	道構・遺物無し
美作国府跡	蛭社 499-1 外	個人住宅	5.30～11.30	883.08	第 528 号	4.26	立会	6.17	道構・遺物無し
瓜生原小源 B 道跡	瓜生原 854-1 外	個人住宅	5.10～8.10	337.08	第 546 号	4.30	立会	5.8	道構・遺物無し
美作国分寺跡	日上 115-	個人住宅	6.10～10.31	437	第 708 号	5.15	立会	6.21	道構・遺物無し
小原高下道跡	小原 128	個人住宅	7.20～11.20	304.9	第 772 号	5.20	立会	7.24	
美作国分寺跡	御守寺 287-1	個人住宅	6.3～	138	第 850 号	5.24	立会	6.7	道構・遺物無し
二宮町御守寺北道跡	二宮 311-1 外	その他開発	-	25,371	第 1242 号	6.19	立会	7.18	消滅
河辺町御守寺道跡	河辺 2175-4	個人住宅	8.25～10.25	136.73	第 1305 号	6.27	立会	7.9	道構・遺物無し
美作国府跡	蛭社 87-2	個人住宅	未定	229	第 1320 号	6.27	立会	10.4	道構・遺物無し
美作国府跡	山北 26-4 外	店舗建設	8.17～10.30	4,330.47	第 1660 号	7.17	立会	8.27	道構・遺物あり
津山城跡	山下 69-37	個人住宅	8.5～11.22	212.65	第 1763 号	7.25	立会	8.16	道構・遺物無し
福井寺壁道跡	福井 1262-8	個人住宅	9.25～11.25	306.88	第 1764 号	7.31	立会	11.14	道構・遺物無し
正善庵道跡	東一宮 61-10	その他開発	10.1～11.20	753.33	第 1868 号	8.5	立会	-	
福本城跡	坪井 327	その他開発	2～	3,649	第 1966 号	8.9	慎重	-	
渡茂原寺跡	高野本郷 928-6	個人住宅	8～	328.7	第 2079 号	8.19	立会	9.26	道構・遺物無し
美作国分寺跡	山口 377-5	個人住宅	9.10～12.21	193.91	第 2174 号	8.30	立会	9.3	道構・遺物無し
美作国分寺跡	御守寺 287	個人住宅	9～11.30	43.67	第 2482 号	9.18	立会	9.27	道構・遺物無し
河辺川原道跡	河辺 1907-2	個人住宅	10.25～11.20	50	第 2485 号	9.19	立会	11.12	道構・遺物無し
沼田野道跡	沼 807-2	その他開発	11.25～12.28	250.78	第 2594 号	9.30	立会	1.7	道構・遺物無し
野口代賃場平道跡	野口代 1518-1	個人住宅	11.20～3.20	372	第 2579 号	9.25	立会	-	
中原原道跡	金 7-1	工場建設	12～	4,714.27	第 2851 号	10.16	立会	開発取り下げ	
美作国府跡	山北 34-2	駐車場	1.10～2.20	803.48	第 3371 号	11.25	慎重		
御守山彌別御庭園	山北 541-7 外	宅地造成	許可日～11.20	2,887.64	第 3064 号	10.16	立会	11.14	道構・遺物無し
高野山西内小山道跡	高野山西 1387	個人住宅	1.15～1.25	423.31	第 3452 号	11.28	立会	1.29	道構・遺物無し
勝部御守寺道跡	勝部 569-1 外	倉庫建築	1.31～3.30	1,882.74	第 3457 号	12.5	立会	1.7	道構・遺物無し
十六石山道跡	勝井下 102-3	個人住宅	12.16～3.31	835	第 3571 号	12.26	立会		
美作国府跡	蛭社 3-4	個人住宅	12.25～3.31	468	第 3559 号	12.19	立会	12.27	道構・遺物無し
美作国府跡	山北 27-1	看板設置	～1.31	8.96	第 3694 号	12.20	立会	1.16	道構・遺物無し
美作国府跡	蛭社 17	駐車場	1.20～1.25	285	第 3822 号	1.9	慎重	-	
久米寺古跡	高尾 516-3 外	その他開発	8.1～2.28	15,600	第 3956 号	1.17			船木秀
小原川松道跡	小原 446-11	倉庫建設	4.20～6.20	323	第 4280 号	2.14	立会		
中原川木道跡	中原 63-2	その他開発	4.10～4.20	630	第 4287 号	2.14	立会	12.16	道構・遺物無し
河辺川原道跡	河辺 1896-10	個人住宅	4.15～8.1	234	第 4363 号	2.21	立会	7.30	道構・遺物無し
美作国府跡	山北 38-3	個人住宅	4.1～9.15	73.9	第 4393 号	2.21	立会	3.19	道構・遺物無し
日上鉄古墳群	日上 862	宅地造成	5.15～6.30	644	第 4686 号	3.31	慎重	-	

埋蔵文化財発掘の通知（法第 94 条）

道跡名	所在地	工事種別	期間	発出者	済市発査	発信日	指示事項	実施日	備考
津山城跡	山下 59 番地外	その他開発	8.29～3.31	済市山北 520 済市長吉田昭範	第 1296 号	6.24	立会	12.17	道構・遺物なし

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第 99 条）

道跡名	所在地	工事種別	調査期間	面積 (m ²)・原内	測量	発信日	調査担当	備考
羽伊山彌別御庭園	山北 546-9	庭園	2.24～3.20	20・道路整備	第 4451 号	2.24	仁木・仲井	本書参照

埋蔵文化財試掘・確認調査の報告（法第 99 条）

道跡名	調査・未調査	所在地	調査期間	面積 (m ²)	測量	発信日	調査担当	備考
美作国府跡	調査	蛭社 77-1	3.21～3.30	15・店舗・無		第 74 号	4.3	平井・仲井
美作国府跡	調査	山北 27-1 外	6.17～6.27	68・店舗・有		第 1526 号	7.8	平井
中原道跡	調査	金井 4 外	9.11～9.13	117.2・その他の建物・有		第 2492 号	9.20	平井
美作国府跡	調査	山北 34-2 外	11.20～11.21	55・その他開発・無		第 3348 号	11.22	平井

遺跡発見の届出（法第 96 条）

遺跡名	所在地	遺跡種別	発見年月日	発見の原因	出土品	備考
中山横穴墓	久米川南 3155	横穴墓	H26.2.24	土木工事中	土師器・漆器器・箱	現状で保存

2. 現地説明会

史跡津山城跡冠木門発掘調査

平成 26 年 2 月 22 日（土）(50 名)



史跡津山城跡冠木門発掘調査現地説明会

第II部
調査の概要

A. 市内遺跡試掘・確認調査報告（平成 25 年度）

津山市が平成 25 年度に国庫補助事業（市内遺跡発掘調査等）でおこなった事業についての概要報告である。調査は、開発に伴う確認調査（美作国府跡、中原遺跡）、保存に伴う確認調査（衆楽園）、及び測量調査（鉄場古墳、祇園千人塚古墳、城塔上 1 号墳）の 6 件である。

1. 旧津山藩別邸庭園（衆楽園）確認調査

a 調査地 津山市山北 546-9 番地

b 調査期間 平成 26 年 2 月 24 日

～平成 26 年 3 月 7 日

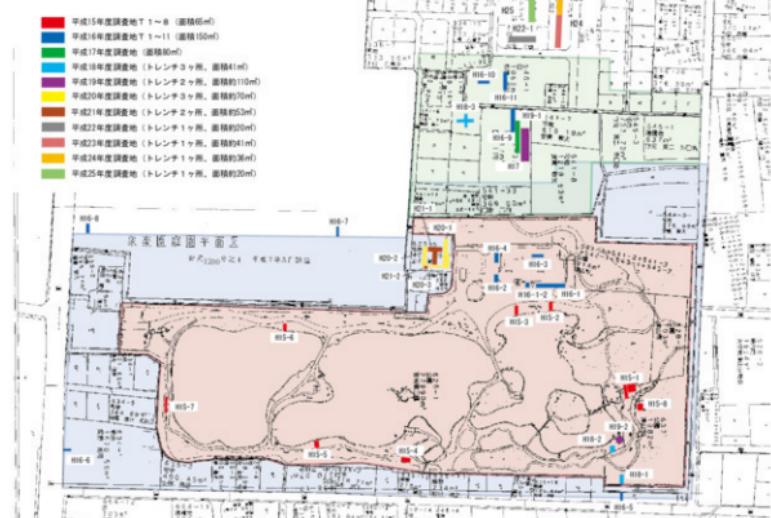
c 調査面積 約 20m²

d 調査の概要

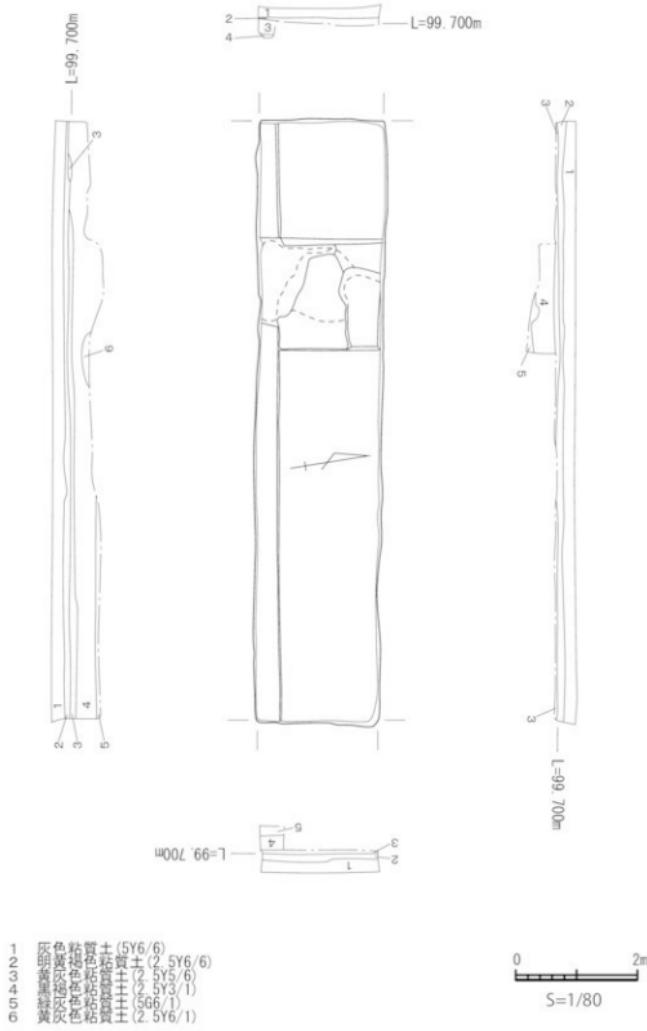
旧津山藩別邸庭園（衆楽園）は平成 14 年に国の名勝に指定され、平成 15 年から継続的に確認調査を実施している。平成 25 年度の調査は、昨年に引き続き遺跡の範囲のうちで西御殿絵図（天保 4 年）以西の関連構造の所在確認を目的として実施した。調査場所は、昨年度実施した調査場所の南側にあたる部分にトレンチを 1 本設定した。



第 1 図 調査位置図



第 2 図 調査トレンチ位置図 (S=1/2,500)



第3図 トレンチ平面図・断面図 (S=1/80)

トレンチ

東西方向に長さ 10 m × 幅 2 m のトレンチを設定した。調査の結果、上層から灰色粘質土、明黄褐色粘土、黃灰色粘土、多くの小礫を含む黒褐色粘質土が堆積する状況が確認できた。

既調査の結果から、多くの小礫を含む黒褐色粘質土層より下には遺構面は無いと判断したが確認のためトレンチ南端部分をさらに掘り下げて層序の確認を行った。その際、トレンチ南西側の一部に黒褐色粘質土の落ち込みが見られたため、その範囲（約 2 m）を拡張して掘り下げたが落ち込みの形状が不定形で、遺物を伴わないと遺構ではないと判断した。

今回のトレンチでは、遺構の確認はできなかったが、耕作土から須恵器片などが少量出土している。

出土遺物

今回の調査では遺構に伴う遺物は検出されておらず、耕作土から須恵器等が出土しているが、極小片のため、時代等の情報を得ることができず、またそのため図化もできなかった。

eまとめ

今回の調査範囲では、旧津山藩別邸庭園（衆楽園）に関する遺構及び遺物は確認されなかった。

(平井泰明)



調査前（北東から）



トレンチ（東から）



落ち込み（東から）



作業状況

2. 美作国府跡確認調査

a 調査地 津山市山北 27-1 ほか

b 調査期間 平成 25 年 6 月 17 日～

平成 25 年 6 月 27 日

c 調査面積 326m²

d 調査の概要

美作国府跡は、津山市街地を流れる宮川右岸の段丘上にあり、昭和 61 年から平成 4 年にかけての確認調査で、溝と堀に囲まれた中に主要な建物が存すること等が知られている。この周知の遺跡「美作国府跡」の範囲内の津山市山北 27-1 ほかで、店舗建設が計画されたため、店舗の基礎工事で掘削を行う範囲の確認調査を実施した。

調査地は、美作国府の政庁跡と考えられている場所の南方向約 250 m の場所に位置し、最近まで、住宅地や畠として利用されていた場所である。このため、特に調査地東側と北側（細くなるまでは、アパートが数棟建っていたとの情報を得た）ではそれらの基礎と思われるコンクリート片などが散乱しており、今回の工事によって影響を受けると考えられるレベルでの旧地表面はすでに失われている場所があることが予想された。

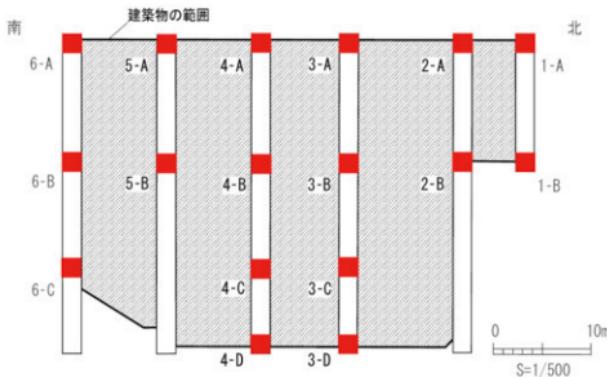
調査はまず、基礎を設置する 17か所の部分を含む場所を東西方向のトレンチとして 6 本を設定して重機、人力にて遺構の有無の確認を行い、さらにこの工事で



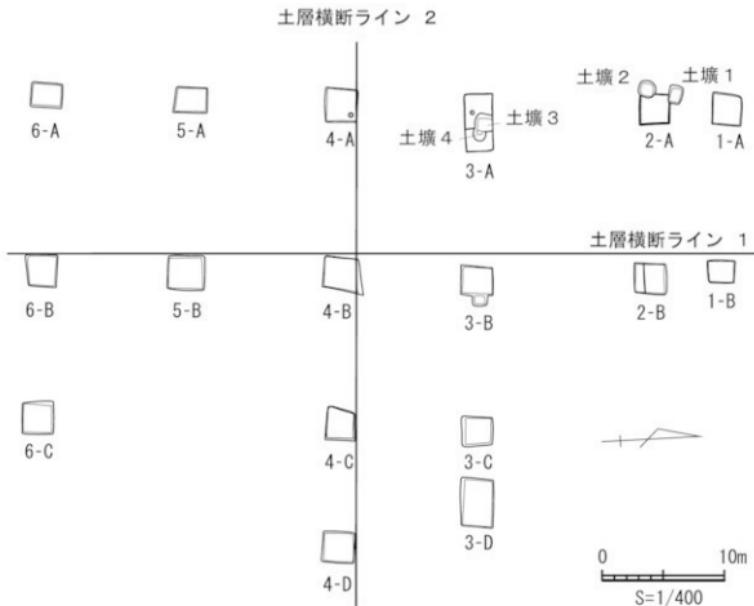
「美作国府跡 小田中遺跡 山北遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』228 岡山県教育委員会 2011 年度調査に加筆

第1図 調査位置図

遺構面が影響を受ける建物の基礎部分の周辺（約 2 m × 2 m の範囲）の 17 カ所を掘り下げて、遺構の有無の確認を行い、写真撮影、図面等を作成した。その後検出した遺構について開発業者と調整を行ったうえで発掘調査を行った。実作業日数は 8 日である。



第2図 トレンチ配置模式図



第3図 トレンチ詳細図

層位

耕土直下に、黄褐色粘質土の層が現れた。建物の基礎部分にあたる 17ヶ所をさらに掘り進めるも同じ層が続いたためこの層を基盤層と判断した。したがって、本調査区内の基本的な層位は、上から耕土、基盤層となる。また、この状況から包含層や基盤層も相当程度削平を受けていると考えられる。

検出遺構

土壤 1

検出面において、長辺 123cm、短辺 92cm、深さは 93cm の長方形を呈する。土層観察からは、柱抜取痕などは確認されず、遺物も出土していないため、用途については判然としない。

土壤 2

検出面において 115cm 四方の円形に近い方形を呈するが床面では 75cm 四方の方形を呈している。この遺構からは、床面中央付近から柱根が検出され、それを

囲むように 30cm 四方の粘土層が見られた。また、柱を囲むように石の配置が見られ、柱を固定するために使用されたものと考えられる。なお、遺物は、極小破片の土器のみで年代等を知る手掛かりとなる遺物の出土はなかった。

土壤 3

一辺 115cm で深さは検出面より 50cm の不整形な方形を呈する。検出の状況から柱穴の可能性が考えられる。この遺構に伴う遺物は検出されなかつた。

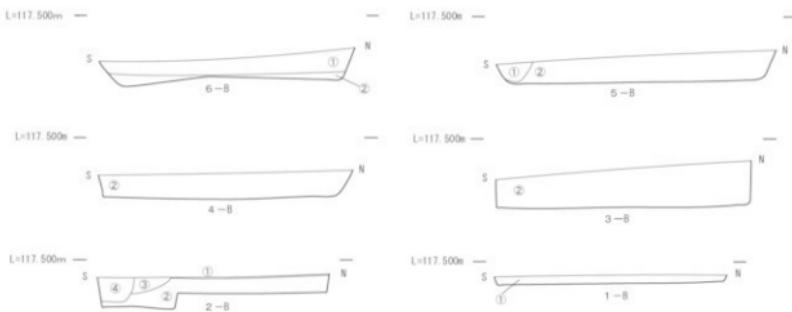
土壤 4

径 85cm のやや不整形な円形を呈する。深さは検出面から 35cm である。この遺構に伴う遺物の出土はなく、遺構の性格については判然としない。

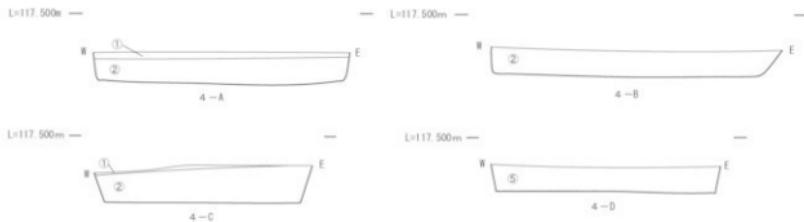
出土遺物

遺物は土壤 2 から出土した極小片の土器以外は、いずれも遺構検出時に出土したもので、遺構に関連して出土したものはない。また、図示したもの以外にも、

土層横断ライン 1

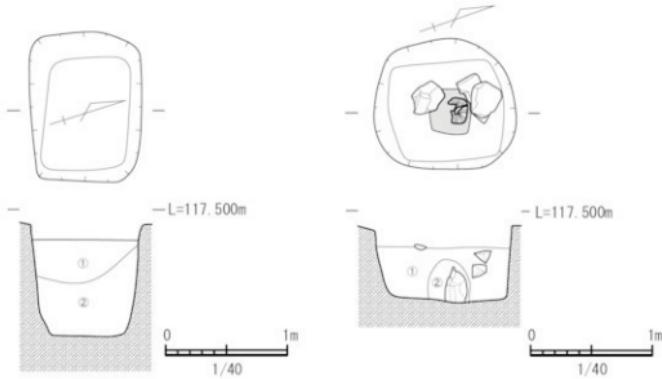


土層横断ライン 2



- ① 耕作土（黒色）
- ② 黄褐色粘質土（地山）
- ③ ①②が混在（現代の振削によるもの）
- ④ ①②黒褐色粘質土が混在（現代の振削によるもの）
- ⑤ 捜乱（家庭解体時のもの）コンクリート片などを含む

第4図 トレンチ断面図

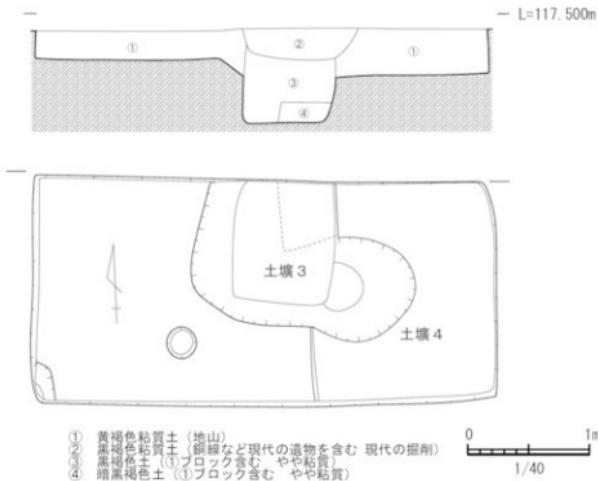


① 黒褐色粘質土（少量の地山ブロック含む）
② 晴黒褐色粘質土・同黄褐色粘質土
(地山) のそれぞれのブロックを含む

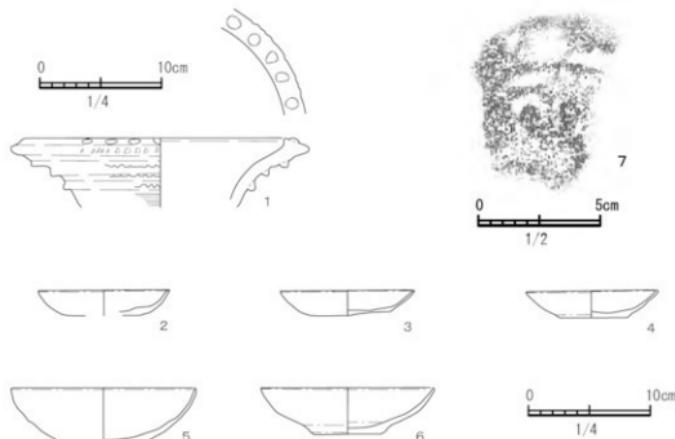
① 黒褐色粘質土（少量の黄褐色の地山ブロック含む）
② 明灰色粘土
■ 明灰色粘土部分（真上から）

第5図 土壌1平面図・断面図

第6図 土壌2平面図・断面図



第7図 3-A トレンチ平面図・断面図



第8図 出土遺物

勝間田焼片等の遺物が出土しているがいずれも極小片であるため、図示できていない。

1は弥生土器で、頸部から口縁部に向かって肥厚し平坦面を形成する。そこに円形浮文を施す。外面は3条の張付突堤が用いられ、口縁部とともに刻目が施される。弥生時代中期中葉ころのものであろう。2~4は土師器の小皿でいずれも系引きにより切り離されている。5・6は土師器碗である。5の底部はほとんど高台状を呈していない。6は底部が平高台状を呈する。いずれも系引きにより切り離されている。これらの土師器は、おおむね12世紀中頃から13世紀前半にかけてのものであろう。7は軒丸瓦で、かなり磨滅しており判別しにくいが、複弁蓮華文であると思われる。

eまとめ

調査の結果、柱穴と考えられる土壤2基と用途は判断しない土壤が2基、それと、小ビット数基が検出された。これらの遺構は、調査区西端の2-A、3-A及び4-Aから検出されまた遺構に伴わない遺物（弥生土器、須恵器、土師器、勝間田焼、瓦）多くは3-A付近から出土している。遺構が西側に集中することについては、本調査地東側では、最近まで住宅地として利用されていたこともあり、今回の工事によって影響を受けるレベルでの旧地表面はすでに失われていたこ

とが、3-D・4-Dトレチの観察により分かっている。このため、この部分の遺構が消滅している可能性が高いことが要因の一つであろうが、本調査区より西側に遺構が密に存在していることも想定される。

今回は、開発工事に伴って、影響を受ける範囲のみを対象として確認調査及び発掘調査を行ったため、現段階では、遺構間の関係等を明らかにすることはできなかったが、調査結果から、今回の調査範囲を含む場所に1ないし2棟の建物跡が存在することが想定される。

（平井泰明）

参考・引用文献

- 「美作国府跡」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告』第50集 津山市教育委員会 1994
- 「美作国府跡 小田中遺跡 山北遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』228 岡山県教育委員会 2011
- 平岡正宏 「美作の古代末から中世の土器」『中近世土器の基礎研究IV』日本中世土器研究会 1993



トレンチ掘削状況



3-A トレンチ検出状況(南から)



2-A トレンチ検出状況(東から)



3-A トレンチ完掘状況(南から)



2-A トレンチ土壤1



弥生土器

瓦



2-A トレンチ土壤2



土師器碗・小皿

出土遺物

3. 中原遺跡確認調査

a 調査地 津山市金井4番地ほか

b 調査期間 平成25年9月11日

～平成25年9月13日

c 調査面積 約117.2m²

d 調査の概要

中原遺跡は広戸川左岸に広がる台地上にある弥生時代の集落跡である。この周知の遺跡中原遺跡の範囲内の津山市金井4ほかで、事業用倉庫の建設が計画されたため、造成工事で掘削を行う範囲の確認調査を平成25年9月11日から平成25年9月13日にかけて実施した。調査はこの工事で遺構面が影響を受けると考えられる造成時に切土を行う場所にトレーナーを3本設定し、遺構の有無の確認を行い、写真撮影、平面・断面図等を作成した。実作業日数は3日である。

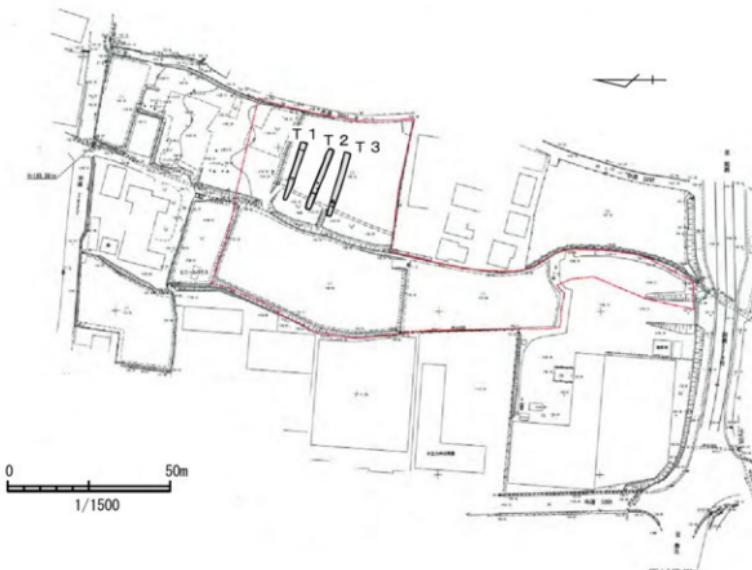
調査地は、丘陵頂部よりやや北側に下った場所に位置し、最近まで、田として利用されていた場所であ



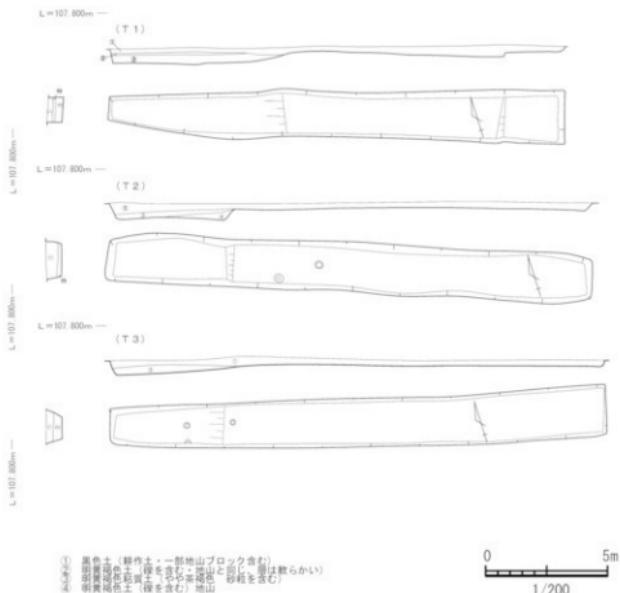
第1図 調査位置図 (S=1/25,000)

る。調査は、まずこの調査地に2m×20mのトレーナーを3本設定して、(北からT1、T2、T3とする)重機にて掘削後人力にて掘り下げ、遺構の有無等の確認等を行った。

3本のトレーナーはともに、耕作土の直下で地山が現



第2図 トレーナー配置図



第3図 トレンチ平面図・断面図

れ、この状況から、包含層や地山が相当程度削平を受けていると考えられた。遺構検出作業の結果、T 2、T 3 で削平を免れたピット数基を確認したが現状では、これらの遺構もかなり削平を受けており、さらに遺物の出土もなかったため、遺構の性格や年代等も明らかにできなかった。また、この状況で遺構の広がりも確認できなかった。

eまとめ

今回の確認調査の結果から、今回の開発対象箇所では、遺構面は削平を受け残存していないと判断される。

(平井泰明)



着手前



T-1



T-2



T-2 ピット



T-3



トレンチ完掘状況



調査終了



作業状況（埋戻し）

4. 鋳場古墳測量調査

- a. 測量地 津山市久米川南 1111-1 番地ほか
- b. 測量期間 平成 26 年 2 月 27 日～
平成 26 年 3 月 20 日
- c. 測量面積 約 2,000m²
- d. 測量の概要

市町村合併に伴い、旧町村の指定文化財についてはすべてが津山市指定文化財として引き継いだ。新たに市指定に加わった古墳（群）は 19 件あるが、このうちのはほとんどに墳丘測量図がないなど、基礎資料が不足している。

このため、これらの古墳（群）の基礎資料作成の一環として、墳丘測量図の作成を目的とした測量調査を平成 22 年度から平成 29 年度までの計画により実施している。4 年次目にあたる平成 25 年度については、鋳場古墳ほか 2か所の測量調査を実施した。

なお、本市においては、旧町村から引き継いだ指定文化財のうち、旧町村の指定名称で既に一般に周知されているものは旧指定名称をそのまま使用している。鋳場古墳については、遺跡地図記載の名称すなはち文化財保護法上の公式名称は「金鋳場 1 号墳」であるが、指定文化財名称は「鋳場古墳」である。

鋳場古墳は、津山市久米川南地内に所在する。従来の見解では一辺 16m、高さ 2m の方墳とされ、隣接する数基の古墳とともに古墳群を形成している。このことから、調査にあたっては個別の古墳の規模把握と



第 1 図 遺跡位置図

古墳群としての所在状況の把握を併せて行う必要があると判断し、古墳群としての測量調査を実施した。

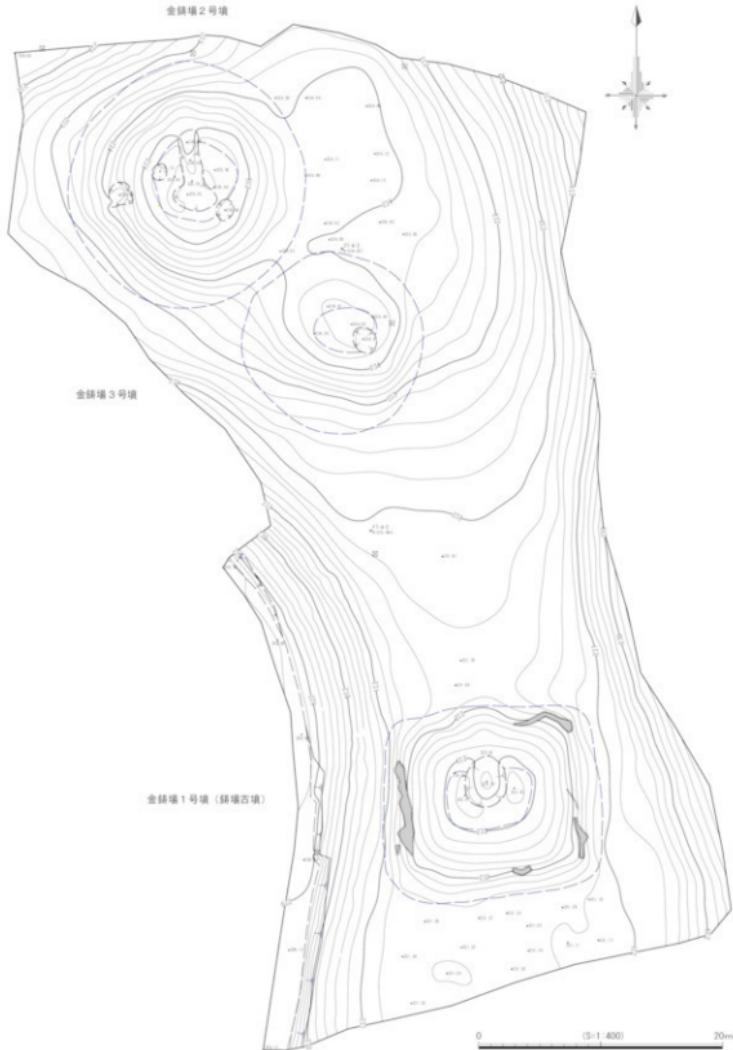
調査は、市有地及び民地が混在するためそれぞれの許可を得たうえ、平成 26 年 3 月に実施した。事前に作業の障害となる立木の伐採と下刈りを行い、市教育委員会職員の現地での立会指示のもと測量作業を実施した。

測量調査の成果については別図のとおりである。測量調査を踏まえた所見としては、鋳場古墳は一辺 17m、高さ 1.6m の方墳で、隣接して径 20m 及び径 15m の円墳 2 基が確認された。今回の調査により古墳（群）に関する基礎資料の把握ができたことが成果としてあげられる。調査中に遺物は確認されなかった。

（仁木康治）



鋳場古墳全景（南から）



錦塚古墳平面図 ($S=1/400$)

5. 祇園千人塚古墳測量調査

- a. 測量地 津山市南方中 1582-3番地ほか
- b. 測量期間 平成26年2月7日～
平成26年3月7日
- c. 測量面積 約700m²
- d. 測量の概要

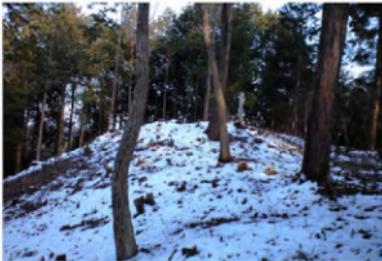
祇園千人塚は古墳は、津山市久米川南と南方中の大字界に所在する単独墳である。従来の見解では、一辺12mの規模の方墳とされていた。調査は、市有地及び民地が混在するためそれらの許可を得たうえ、平成26年2月に実施した。事前に作業の障害となる立木の伐採と下刈りを行い、市教育委員会職員の現地での立会及び指示のもと測量作業を実施した。

測量調査の成果については別図のとおりである。測量調査を踏まえた所見としては、祇園千人塚古墳は一辺18m、高さ4mの方墳で、墳丘の南側は変形が著しいものの、北半分は良好に遺存していることが判明した。調査中に遺物は確認されなかった。

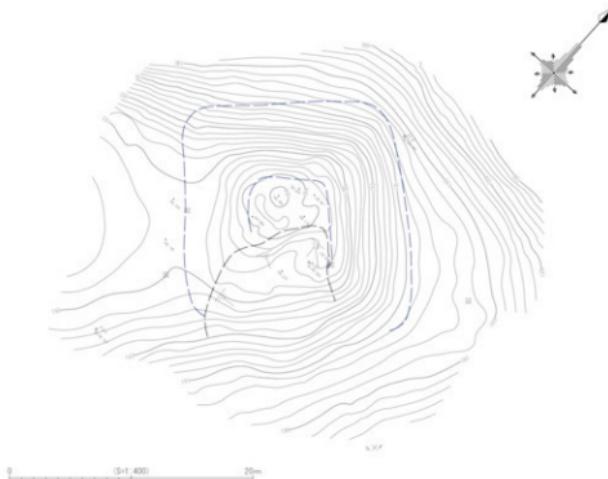
(仁木康治)



第1図 遺跡位置図



祇園千人塚古墳全景（北西から）



祇園千人塚古墳平面図 (S=1/400)

6. 城塔上1号墳測量調査

- a. 測量地 津市山久米川南 1111-1番地
- b. 測量期間 平成26年1月9日～
平成26年2月3日

c. 測量面積 約600m²

d. 測量の概要

城塔上1号墳は、津市山久米川南地内に所在する単独墳である。従来の見解では、墳丘の過半を滅失しているものの、径15m、高さ1.1mの規模の円墳とされていた。なお、本墳については、遺跡地図記載の名称すなわち文化財保護法上の公式名称は「二反田1号墳」であるが、指定文化財名称は「城塔上1号墳」である。

調査は、市有地であるため管理担当課の許可を得たうえ、平成26年1月に実施した。測量作業上問題となる立木は管理団体により伐採されていたため、現地踏査を行って測量範囲の設定を行い、市教育委員会職員の現地での立会及び指示のもと測量作業を実施した。

測量調査の成果については別図のとおりである。測量調査を踏まえた所見としては、城塔上1号墳の規模は復元径14m、高さ1.2mの円墳とみられる。

ただし、墳丘の約半分を滅失しているため、墳丘規模の測量調査での確定は困難である。なお、調査中に遺物は確認されなかった。

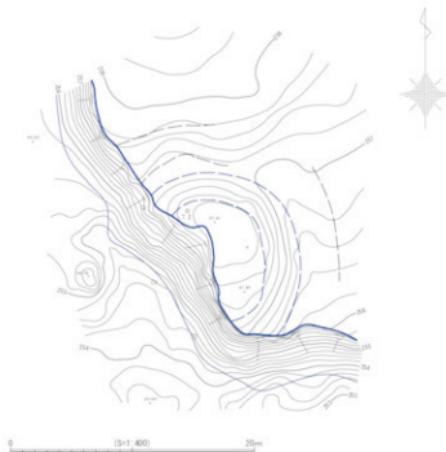
(仁木康治)



第1図 遺跡位置図



城塔上1号墳全景（北から）



城塔上1号墳平面図 (S=1/400)

第Ⅲ部
文化財の保護・管理

A. 文化財の保護

1. 文化財保護委員会（委員 12 名）

第1回：11月1日 第2回：3月20日

《重要伝統的建造物群保存地区》

津山市城東伝統的建造物群保存地区（8月7日付け）

2. 新指定・選定の文化財

《国指定文化財》

本源寺本堂・庫裏・靈屋・靈屋表門・中門 附棟札
1枚（8月7日付け）

《市指定文化財》

中山神社の太鼓（4月23日付け）

3. 文化財防火訓練

1月26日 千磐神社

B. 指定文化財の保存管理

1. 国指定文化財

《建造物の修理等》



本源寺本堂



本源寺靈屋



中山神社の太鼓



防火訓練



津山市城東伝統的建造物群保存地区

中山神社・鶴山八幡神社・総社防災設備保守点検
《史跡の公有化、整備》

美作国分寺跡の公有化事業（9年次）

- ・土地4筆の購入、草刈
- ・地元説明会の開催：3月30日

津山城跡の保存整備事業

- ・天守台間詰石補修工事 東側石垣変位計測
- ・「津山城だよりNo.18」の刊行
- ・発掘調査（冠木門、裏鉄門下雁木）
- ・整備委員会の開催

第34回（10月31日）、第35回（3月19日）

- ・南側法面灾害復旧工事

《史跡の管理、草刈等》

美和山古墳群の管理、草刈・剪定

三成古墳の草刈、院庄館跡の管理・草刈

《天然記念物の管理》

トラフダケ自生地の管理

《有形民俗文化財の防災点検》

田熊の舞台防災設備保守点検

《説明板の設置》

本源寺説明板2基

2. 県指定文化財

《史跡の草刈等》

日上天王山古墳・日上畝山古墳群草刈、久米庵寺跡草刈、矢筈城草刈、岩屋城草刈

《天然記念物の管理》

尾所の桜の管理（樹木医による治療）

《無形民俗文化財への補助》

新野まつり、八幡神社・物見神社の花祭り、高田神社の獅子舞保存伝承への補助

3. 市指定文化財

《史跡の草刈等》

沼遺跡草刈・剪定、井口車塚古墳草刈、中宮1号墳草刈、飯塚古墳草刈、煙硝藏跡草刈、茶屋の一里塚管理、神楽尾城跡草刈、荒神山城跡草刈、医王山城跡草刈、西登山金屋寺草刈、河辺上之町草刈

《天然記念物の管理》

新善光寺のサルスベリ（樹木医による治療）

4. その他の文化財

津山中核工業団地内古墳（一貫東1号墳）公園草刈

C. 歴史民俗資料館の管理運営

1. 加茂町歴史民俗資料館

利用者数 210人

社会福祉法人津山市社会福祉協議会（加茂町福祉センター）に管理を委託

2. 勝北歴史民俗資料館

利用者数 112人

消防用設備保守管理委託 清掃・棗菴・整理作業

3. 久米歴史民俗資料館・民具館

利用者数 213人 消防用設備保守管理委託

4. 阿波民具館

利用者数 把握できず

D. その他

津山やよいライオンズクラブによる沼弥生住居址群への桜・公孫樹の植樹（3月4日）



尾所の桜（樹木医治療）



やよいライオンズクラブ植樹

第IV部
資料紹介・研究ノート

はじめに

平成 24 年に津山市教育委員会は、「千年寺第二代鐵堂道融和尚墳墓はか歴代住持墓所」(津山市下田邑)を市指定文化財とした。同寺にはこの他に「森長繼逆修塔及び周囲の石樋」(平成 6 年指定)や、未指定ではあるが、同寺 7 世中興開山石窓和尚の龜趺があり、それらの遺構は黄檗宗の地方展開を伝えている。

森家と黄檗宗とのつながりは深く、宇治の黄檗宗本山萬福寺にある「松邊堂」(重文)は津山藩 2 代藩主・森長繼の実弟にあたる同支藩藩主・閑長政が寄進したものである^(註1)。現在も萬福寺墓地には森・閑両家の供養塔が多く祀られている^(註2)。

黄檗宗は江戸時代の日本に「黄檗文化」と呼ばれる明清文化をもたらしたことから、黄檗派については主に江戸時代の建築史・書道史・絵画史・文学史などに関する研究が進んでいる。しかしその反面で、教団史研究の遅れが指摘されている^(註3)。以下、限られた史料を通してではあるが、慶長 8 年(1603)から元禄 10 年(1697)までの間に、津山森藩の支配下にあつた美作国における黄檗派の展開について考察を試みたい。

1. 黄檗派について

黄檗宗は承応 3 年(1654)に来日した隱元隆琦を開祖とする、臨濟宗三派(臨濟宗・曹洞宗・黄檗宗)のうちの一派である。隱元は朝幕の保護を受け、寛文元年(1661)に宇治に黄檗山萬福寺が創建され、同寺が臨濟宗黄檗派の本山となった。廢寺の復興を通じて、急速に教縁を拡大した黄檗派は、鐵牛禪師の橋沼干拓や鐵眼禪師の大藏經開版をはじめとする社会事業のほか、飢饉・災害時の救済活動などを積極的に行っている。また、黄檗派の渡來僧がもたらした明朝文化は江戸時代の文化の諸方面で大きな影響を与えた^(註4)。

この時期の仏教界全体の動きをみると、黄檗派が成立した 17 世紀半ばは仏教復興運動が始まりを見せた時期であり、各宗派は法会を活発に行って教団の形成を進めている^(註5)。こうした仏教界の動きに対して、幕府は寛文 5 年(1665)に諸寺法度、同 8 年には本

山末寺制を制定するなど、宗派の固定化が始まりをみせたが、そうした中で、黄檗派は新しい宗教勢力として台頭している。しかしながら、檀家以外との寺檀関係を持たなかつたことや、中国僧の来日が途絶えたこともあり、17 世紀後半頃には教団としては衰退期を迎えた^(註6)。なお、現在の「黄檗宗」は、明治 9 年(1876)に「臨濟宗黄檗派」(明治 7 年改称)から分離して成立した教団である^(註7)。

2. 千年寺の創建と黄檗派の受容

津山森藩では 2 代藩主長堯が領国内の社寺の復興を進めており^(註8)、寛文 8 年に千年寺が創建。萬福寺 2 世木庵性瑠(1611 - 1687)を開山とした。木庵を開山に迎えた経緯については、千年寺 2 世鐵堂道融の行状を記した『千年第二代鐵堂禪師行由』(門人常円記「千年第二代鐵堂禪師行由」／悦心編「黄檗高僧伝」一 写本、以下『鐵堂行由』と略記する)に詳しい。同書によると、千年寺本堂落成から木庵を開山招請するまでの数年間、「本源寺堂頭即空」の推薦により、創建直後の千年寺には鐵堂が入ったが、その後、鐵堂が萬福寺 2 世木庵性瑠より具足戒を授かり、木庵が千年寺の開山に迎えられたといった経緯が記されている。この記述から、鐵堂が千年寺に入る以前に住持として森家に招請された本源寺の即空(即空性立)が千年寺創建に関わる重要な人物であったことがわかる。

そこで、この即空という人物について検討したい。本源寺の史料によると、即空は本源寺 4 世藍岫和尚死去後に住持を勤めた人物であり(『列堂和尚遺記 全』本源寺藏、享保 18 年成立)、4 世藍岫宗祝の弟子にあたる(『昭和改訂 正法山妙心禪寺宗派圖』妙心寺派宗務本所總務部、昭和 52 年)。ただし、即空は本源寺の歴代住持として数えられていない。その理由はよくわからないが、本源寺 7 世列堂の弟子にあたる祖盆という僧が記した書によると、「或年民有輕國制蠶、公(長繼公)大怒欲罰之時、即空失言」とあり、長繼に退寺を命じられたとの旨を伝えている(『本源寺略記并住職次第』(『矢吹家資料』弓齋叢書 123、津山郷土博物館所蔵))。

一方、本源寺7世列堂和尚が記した書によると、即空が寺を退いた理由について「内記殿（長継）」時代専重罪之者在之、即空其外之守貢之重罪、助命難被仰付者ニ候得共、無撫救免」とあり、退寺を命じられたとは記していない（『列堂和尚遺記 全』（本源寺蔵、享保18年成立）。このように、即空の隠退理由については、退寺を命じられたとも、あるいは自ら寺を退いたとも伝えている。ただ、本源寺を出た即空は、寛文3年（1663）に萬福寺で受戒しており黄檗派に転じている。また、延宝7年（1679）には大日山瑞景寺（奈良市）の開山となっている（註9）。同寺は木庵の隠居所となった寺院であるが、この時期の即空の活動については、木庵の年譜・語録類に散見される（註10）。なお、黄檗宗では系子（諱の一字目）で法統を表すことから、「即空性立」の僧名「即空」の「即」の字は隱元の法嗣であること、諱の「性立」の「性」の字は木庵の法嗣であることを示しているのではないかと思われる（註11）。

本源寺から隠退した即空は、長継より本源寺への帰住を請われるも、これを固辞している。理由はよくわからないが、再住を望まなかった、あるいは妙心寺派内では寛文5年（1665）に「法山壁書」（寺規）を補正し、「一派宗風以外の他山の法式に妄從すべからざる事」と定め、黄檗派への転向を警戒していたので、

即空は妙心寺末寺である本源寺の歴代住持として認められなかったのかもしれない（註12）。黄檗派の受容をめぐっては妙心寺派と黄檗派との間に対立が生じておおり、鳥取藩池田家菩提寺の興禪寺や萩藩毛利家の東光寺といった大名家菩提寺では両宗派の対立関係が表面化している（註13）。そのため、鳥取藩池田家では新たに黄檗派の一寺を建立し、両派の寺をそれぞれ菩提寺としている。また、萩藩毛利家では昭穆制を探り、歴代藩主を偶数代と奇数代にわけて、黄檗派と妙心寺派の寺院をそれぞれ廬所としている。

津山藩森家の場合、2代藩主長継が創建した黄檗派の千年寺には逆塔が建立されるなど、長継の個人的な祈禱所として営まれているが、歴代藩主の廬所は妙心寺派の本源寺のまま存続しており、両派の対立は特に見られない。あるいは、萩藩毛利家や鳥取藩池田家のように、津山藩でも両派の菩提寺が成立した可能性もあったのかもしれないが、黄檗派に転じた即空が本源寺を退いたこともあり、同寺の宗派は変わらなかつたため、両派の対立が表面化することはなかったのかかもしれない。

なお、千年寺から退廻した鐵堂の消息であるが、前出の『鐵堂行由』によると、延宝6年（1678）に千年寺から退廻し、奈良の吉野に庵を結んでいるが、翌7年には長継・長政の招請により千年寺に帰住している。



〈図1〉 津山城下の妙心寺派寺院（18世紀後半）

出典『津山城下町人地家割図』（津山郷土博物館所蔵）

る。同年は即空が開山となって瑞景寺が創建されているので、時期的にみて、鐵堂がこれに関わった可能性も考えられる。

3. 美作国における黄檗文化の受容

森家菩提寺の本源寺の周辺には、妙心寺派寺院が集まっており、それらの寺院は妙心寺あるいは本源寺と本末関係を結んでいる（図1）。本源寺住職を勤めていたのが即空であるが、この時期には森家重臣の原氏を開基とする宗堅寺・大雄寺に傳室（傳室玄悦）が、宗永寺には鐵堂が入寺している。このうち、即空と鐵堂についてはすでに述べたので、ここでは、宗堅寺・大雄寺の開山僧で、鐵堂の師にあたると考えられる傳室についてみていくことにする。

傳室はその出自を森家の重臣である原氏とする。一説では原十兵衛の妻の兄弟にあたる人物とされる。原氏は慶長8年（1603）に森家の美作国に入封に従い、美濃國より入国。森家が美濃國を支配した時代に、原氏は鐵堂を養育したとされる（『千年第二代鐵堂禪師行由』）。鐵堂もまた傳室と同じく原氏と関わりの深い人物であったと思われる。原氏は美作国に宗堅寺・大雄寺の2寺を建立し、傳室を開基とした（『新訂作陽誌』）。傳室は晩年に妙心寺の塔頭・龍泉庵の輪番を勤め（図14）。元治元年の前年にあたる承応2年に示寂し

ている。没年からみて、傳室については黃檗派との関わりは考えられない。しかし、原氏が建立した宗堅寺の末寺である西方寺西方寺3世松雲道貞（元禄3年（1690）没）が萬福寺2世木庵性瑫より受戒しており、傳室の法系からも黃檗派に転じた僧があらわれたことがわかる（図15）。

また、城下の妙心寺派寺院には黃檗僧の墨蹟が伝来しており、ここにもその影響が認められる。現存が確認できたものとして、本源寺が所蔵する即非如一墨蹟および慧林性懶機筆の扁額（図2-写真1～3）、妙心寺末寺の大雄寺の本堂に掲げられている木庵筆の山号「百丈山」の木額（図2-写真4）、本源寺末の莊嚴山佛土寺（真庭市）客殿の木庵墨蹟などがある（図2-写真5）。木庵の額字原書は貴重な遺品であり、豊前小倉藩小笠原家菩提寺・福聚寺（北九州市）に伝わる木庵の墨蹟、筑後柳川藩立花家菩提寺・福嚴寺（柳川市）に木庵の墨蹟が現存している（図16）。また、大雄寺本堂の木額「百丈山」は金箔を施した重厚なもので、往時の境内が偉観を誇ったことを男鬚とさせている。

なお、妙心寺派寺院ではないが、大雄寺と境内を接する曹洞宗總持寺派の長安寺の山門には、黃檗派の渡来僧・高泉性澈（1633～1695）筆の扁額が掲げられている（図2-写真6）。同寺は正保元年（1644）



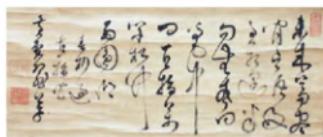
〈写真1〉即非如一墨書「東海山」本源寺蔵



〈写真3〉
慧林性懶機筆扁額
「南無觀世音菩薩」
本源寺蔵



〈写真4〉木庵性澈機筆扁額「百丈山」 大雄寺蔵



〈写真5〉木庵性澈墨蹟「走盤珠」 佛土寺蔵



〈写真6〉高泉性澈筆扁額「大通透長安」 長安寺蔵

〈図2〉黄檗派渡来僧の墨蹟・扁額

の創建で、安永年中（1772 - 1781）に曹洞宗總禄司を勤めた古利である。山号は初め「勝福山」とし、後に「大道山」と改めている（『新訂作陽誌』）。同扁額の來歴は未詳であるが、高泉が元禄5年（1692）に黄檗山5世住持となっているので、その時期に揮毫したものと考えられる。ただ、「大道通長安」という文言から、同寺の山門のために作製された扁額ではないようにも思われる。黄檗派は曹洞宗復古運動の胎動に影響を与えており、山号の「大道」と寺号の「長安」は、明治期に同寺の住職を勤めた後に曹洞宗の改革を行った救世教開祖大道長安（1843 - 1908）の名にも用いられていることから、曹洞宗の改革運動に黄檗禪が与えた影響の一端が垣間見える（註17）。

4. 美作国内の黄檗派寺院の本末関係

美作国内の黄檗派寺院の開基をみると、森長繼、閑長政を開基とする寺院と、森家重臣の原氏や、江見・安藤氏といった在地領主が開基となった寺院とに分類でき、大名家が開基となった黄檗派寺院が萬福寺直末となり、重臣や在地領主が開基となった寺をその末寺として組織化していることがわかる（表1）。例えば、長繼が開基となつて寛文8年に創建された千年寺は木庵性瑫を開山とし、閑長政が延宝元年（1673）に再興した普福山玉傳寺（真鶴郡鹿田村）は隱元隆琦を開山としており、それぞれ萬福寺の直末となっている（『新訂作陽誌』（註18））。そして、千年寺の末寺となつている寺の1つが、江見氏を開基とし、虎山を開山とする柳應寺（英田郡大原村）である。虎山は鳥取藩池田家が黄檗派の菩提寺として創建した龍峯山興神寺の使僧として来国し、江見氏の帰依を受けて同寺の開山となつていている。千年寺の末寺となつたのは、虎山が千年寺の鐵堂に帰依したことによるもので、同寺は開山後に千年寺の末寺となつてている（『新訂作陽誌』）。千年寺は美作国内の黄檗宗寺院11ヶ寺（『近世黄檗宗末寺帳集成』）のうち8ヶ寺を末寺化（この内2ヶ寺は孫末）しており、同国内にお

ける布教の拠点寺院となっている。

5. 森家と黄檗派僧との関わり

長政は寛文3年（1663）3月以降から萬福寺にたびたび参禪。翌4年には妻の松遷院の江戸屋敷を萬福寺に寄進。松隱堂（重文）がそれで、隱元の隠居所となつている。その後、同8年に長繼が千年寺を創建すると、同時に長政は會利塔を造立し、隱元・木庵・即非・慧林・独湛・高泉といった黄檗派渡来

（表1）美作国内の臨濟宗黄檗派および妙心寺派寺院

1 黄檗派

（1）黄檗山萬福寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代	出典
長繼山千年寺	吉野郡下田町	森長繼	木庵性瑫	寛文8年（1668）	「作陽」-「末寺」
普福山玉傳寺	真鶴郡鹿田村	閑長政	隱元隆琦	-	「作陽」三「末寺」 （「末寺帳集成」は西北坂 原の原版と記載）

（2）長繼山千年寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代	出典
坦嶺山本光寺	吉野郡西一宮	森上繼	鐵堂道祐	延宝元年（1673）	「作陽」-「末寺」
金栗庵	吉野郡下田町	江見氏	鐵堂道祐	大和2年（1615）	「作陽」-「末寺」
心學山應藏庵	勝北郡久賀村	-	北岩	-	「作陽」六「末寺」
高徳山應慈寺	美山郡大原村	江見氏	鐵堂道祐	延宝5年（1677）	「作陽」八「末寺」
谷山觀音寺	美山郡大原村	江見氏	鐵堂道祐	-	「作陽」八「末寺」

（3）櫻鶴山本光寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代	出典
東南保郡志賀波村	-	-	-	-	「作陽」四「末寺」
曉雲堂	西北保郡一宮村	-	-	-	「作陽」一「末寺」

（4）慈福院（萬福寺末寺）

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代	出典
法堂山太平寺	真鶴郡鹿田村	-	-	-	「末寺」
慈福院	真鶴郡一色村	-	-	-	「作陽」一「末寺」

出典の「作陽」は「新訂作陽誌」、「末寺」は竹宣下博士「近世黄檗宗末寺帳集成」（慈福院、1990年）

＊は萬福宗庶本院「黄檗寺寺帳名簿」平成20年度改訂版掲載寺院

II 心妙寺東海派

（1）京都心妙寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代
東海山本源寺	西町	森忠政	海叟	慶長12年（1607）
法源寺	西町	森長綱	正傳	明暦2年（1656）
西藏山壽光寺	西寺町	森可政	寂齋	慶長1596 - 1615）中頃
護國山圓覺院	西寺町	閑次	天倫	元和年間（1615 - 1625）
白石山大應寺	西寺町	原氏	傳空	慶長中期

（2）東海山本源寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代
佛光山法極寺	西寺町	原氏	傳空	寛永11年（1634）
江鏡山淨土寺	真鶴郡垂水村	-	-	-
万歲山萬福寺	吉野郡	-	-	-
金龜山寶昌寺	吉野郡	-	-	-
寂淨山應福寺	東北保郡上高倉村	-	-	-
摩羅山興福寺	東北保郡阿瀬村	-	-	-
幸福寺	吉田郡大原村	-	-	-

（3）佛光山淨土寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代
寶貴院	吉田郡大原村	-	-	-

出典：「新訂作陽誌」

僧に賛を求めていた。長政は書画を能くし、隱元・木庵との交流を続け、僧名を「梅岩居士」とし、晩年には木庵より受成している^(註19)。

こうした長政と黄檗派との密接なつながりを背景として、美作国内の他宗派寺院への黄檗派の影響が認められる。例えば、高野山真言宗の農樂寺（岡山市北区）の大般若經の整備を長政が行っている（『新訂作陽誌』）。黄檗版の開版事業に呼応した動きのようにも思われる。また、長政は元禄2年（1689）に真言宗・福聚山清水寺（眞鍋郡閑村）の鐘楼を鑄造し、その銘文の起草を黄檗34世高泉性澈に依頼している（『新訂作陽誌』三）。

さて、次に長繼と黄檗派との関わりであるが、長繼には長政のような黄檗僧との文芸活動を通じた交流はみられないが、黄檗派の草創期に千年寺を創建していることから、萬福寺創建時の有力な檀越の一人であったと考えられる。また、長繼の黄檗派の保護のあり方の特徴として、黄檗派寺院を祈禱所として位置づけている点があげられる。例えば、創建した千年寺には自身の逆修塔を造営しており、同寺末の本光寺に側室繼光院の逆修塔を建立しているといった点にそのような特色が見られる。

なお、長繼の没後、津山藩森家は元禄10年（1697）に除封。津山藩（18万6千石余）は、備中西江原森藩（2万石）・播磨三日月森藩（1万5千石）・新見閑藩（1万8千石余）に分かれる。このうち、三日月藩森家では、長繼の側室で、同藩祖の森長俊の実母にあたる繼光院が移封後も黄檗派に深く歸依している。寛政3年（1791）成立の『森家雑話』には、繼光院が江戸紫雲山瑞聖寺の「住職或者微笑院ケイホウ和尚招候て禪學修行致し」たとあり^(註20)、女性信者の信仰生活の一端がうかがえる。

おわりに

津山藩森家菩提寺では、萩藩毛利家や鳥取藩池田家ののような妙心寺派と黄檗派との鋭い対立は見られないが、妙心寺の直末寺である同家菩提寺の本源寺から黄檗派に転じた僧があらわれている。また、美作国には黄檗派寺院が11ヶ寺あったことが確認されているが、その本末関係をみると、長繼が創建した千年寺と長政が開基となった玉傳寺の2ヶ寺が萬福寺の直末となり、その末寺に重臣・在地領主クラ

スの武士が開基となった寺庵7ヶ寺が連なっており、これとは別に萬福寺塔頭慈福院の末寺2ヶ寺が建立されていることがわかる。こうした本末関係の編成から、美作国では大名家が開基となった寺院を拠点にして黄檗派の受容が進んだものと考えられる。また、黄檗派僧の墨蹟の伝存状況から、その文化的影響が他宗派にも及んでいた様子がうかがえる。

〈謝辞〉本稿の作成にあたって、西方寺池田実篤住職、千年寺北川艶香住職、大雄寺木村道玄住職、長安寺久保孝道住職、佛土寺馬場宗甫和尚、本源寺華山義道住職より御教示と御協力を賜りました（以上、五十音順）。記して厚く御礼申上げます。

追記

宝曆12年（1762）に本源寺10世萬愚自鏡が書き記した『森関宗廟由来』（本源寺蔵）に、関長政が母の菩提寺・溪花院に寄進した寺号額（「黄檗隱元禪師 溪花院」、銅額、横5尺6寸、上下幅3尺2寸5分）が本源寺に伝来していたことを示す記事が新たに見つかったとのこと、脱稿後に本源寺華山住職より御教示があった。なお、同額は現存していないとのことである。一連の黄檗僧の墨蹟が本源寺に伝来する背景がうかがえる貴重な史料であるので、付記しておきたい。

出】

- (1) 安部禪梁「黄檗山の開創と黄檗文化」／『古寺巡礼』京都9 萬福寺（淡交社、昭和52年）、竹貫元勝「日本禪宗史研究」（雄山閣、1993年）
- (2) 秋元茂陽「萬福寺に建立された大名家の墓碑考覧」黄檗山萬福寺黄檗華嚴歴史文化研究所『萬葉文庫』第130号、2009～2010年
- (3) 竹貫貞前著書（註1）、同「黄檗宗教團の形成と展開」（石川力山・広瀬良弘編『讀書 禅と日本文化』第10卷 禅とその歴史、ペリカン社、1999年）
- (4) 鈴藏亮介「黄檗派美術の影響」（中野三敏編『日本の近世』12 文学と美術の変遷、中央公論社、1993年）、中野三敏「都市文化の成熟」・「明治の愛容」（『十八世紀の江戸文芸』（岩波書店、1999年）、大木 康7明・末江南の出版文化』（研文出版、2004年）、末本文美士「新アジア仏教史 13 日本 Ⅲ 民衆佛教の定着」（段成出版社、2010年）、木村得玄「隱元禪師と黄檗文化」（春秋社、2011年）、同「初期黄檗派の僧たち」（春秋社、2007年）、同「黄檗宗の歴史・文化・人物」（春秋社、2005年）

- (前頁からの続き)
- (5) 曾根原 理「近世国家と仏教」／『新アジア仏教史13 日本Ⅲ 民衆 仏教の定着』(辰巳出版社、2010年)、広瀬良弘「神宗史研究の動向概観」(『禪と地域社会』吉川弘文館、2009年)、西村玲「近世仏教論」(『日本思想史講座3 - 近世』ペリカン社、2012年)等参照。
- (6) 竹貫氏前御書(註1)
- (7) 平久保章「黄檗宗」(『国史大辞典』杏川弘文館弘文館、昭和55年)
- (8) 『丹波山市史』第三巻 近世I - 森藩時代 - 「第三章 森氏と藩政 長継と社寺」(丹波山市、昭和48年)
- (9) 『奈良県史』第六巻寺院・奈良県史編纂委員会、1991年
- (10) 平久保章『新纂校訂木庵全集』(思文閣出版、1992年)
- (11) 本源寺崇山義道住職の御教示による。
- (12) 川上晶山著・鶴利純道補刊「妙心寺史」(思文閣、1975年)
- (13) 「妙心寺史」(思文閣、1975年)、「鳥取県史」第四卷・財政志・刑法志・寺社志(鳥取県、昭和46年)、竹貫元勝「未寺帳に見る黄檗宗教理」(『近世黄檗宗未寺帳集成』雄山閣、1990年)
- (14) 西方寺池田実庵住職の御教示によると、傳室が妙心寺龍興寺の輪番を勤めたことについては、『日華』(妙心寺龍興庵藏)慶安元年(1648)に記載がみられるとのことである。
- (15) 松雲が木庵より受戒したことについては、西方寺再興棟札(『新庄村史』昭和41年)に記載が見られる。
- (16) 九州国立博物館特別展図録『黄檗』(西日本新聞社、2011年)
- (17) 竹貫元勝前御書(註1)
- (18) 竹貫元勝「未寺帳記藏寺院一覧表」(註13)
- (19) 大隈特郎・加藤正復・林雪光「黄檗文化人名辞典」(思文閣出版、1988年)
- (20) 「森氏雜話」寛政三年辛亥七月既望 原 深沢黒澤写(竹山家資料)

美作の狛犬（6）

田淵千香子

はじめに

私は、美作地域の狛犬を悉皆調査している。奉納されている狛犬の中には、年代・石工銘以外にも、台座に寄進理由が記されたものが存在する。狛犬がどういった経緯で寄進されたのか知る上で大変重要な情報である。寄進理由の中には、「皇紀二千六百年記念」「興亜記念」など氏子中で戦勝祈願をしたものが多いが、「古希記念」「快気祝い」「日参記念」など、個人的な理由で奉納する場合もある。

さて、今回知人から自身が10年に渡り翻刻している明治時代の日記に狛犬が奉納されるまでの経緯のわかる資料が見つかったという知らせが入った。それは、明治時代に活躍した津山市の実業家・安黒一枝の日記である（註1）。今回は、この日記の記述を元に

木山神社（里宮）拝殿前の狛犬



（写真1） 真庭市木山神社（里宮）拝殿前の狛犬



（写真2） 木山神社里宮狛犬台座銘文

狛犬奉納までの経緯を追っていきたい。

木山神社（里宮）の狛犬の台座には、阿・吽それぞれに寄進理由が記されている（写真1・2）。吽形には、「御里宮 御造営記念 津山市上横野 高岡善直 昭和三十四年八月吉日 奉建」吽形には、「自明治四十一年一月至昭和廿二年一二月 五十年間

年一月至昭和廿二年一二月 五十年間 御奥宮 日参記念 津山市上横野 高岡虎市」といった銘文が書かれてある。高岡善直が、木山神社に里宮が出来たことを記念、また高岡虎市が50年間奥宮まで日参したことを記念して、狛犬を奉納したことが明記されている。



（写真3）『安黒一枝日記』昭和34年

安黒一枝の日記に見られる狛犬奉納までの記述

『安黒一枝の日記』は、明治32年～昭和38年、安黒一枝が亡くなる年まで、毎日書かれていて、日記帳48冊と大学ノート23冊、その他の綴り14冊にまとめられている（註2）。その中に、「昭和34年7月31日 高岡君来莊 木山神社奉獻コマ犬ノ名文ヲ据ハタキ之タ」とする記事があった（写真3）。「高岡君」とは誰なのか。日記を調べていくと、「高岡君来莊」という記述が毎日のように並んでいる。昭和15年5月24日の記述には、「高岡君来莊 善真君無事帰還ニテ木山に御礼謝ひ付テ」とあり、また昭和36年7月25日には、高岡虎市が亡くなった後に「高岡善真君来莊 父翁仕上昨日執行シ由ニテ送品」と書かれてある。「高岡君」とは、高岡虎一（市）という人物で、その息子が高岡善真という名前であることがわかった。木山神社（里宮）の狛犬の台座銘には、「御里宮御造営記念 津山市上横野 高岡善直 昭和三十四年八月吉日 奉建・「自明治四十一年一月至昭和廿二年一二月 五十年間 御奥宮 日参記念 津山市上横野高岡虎市」とあり、日記の記述を照合すると、高岡虎市の字が「市」・「一」

と異なるが記述内容から同一人物であると考えて良いと思われる（写真1・2）（資料1）。

高岡虎市、木山寅宮 50年間日参の記

高岡虎市は、大正8年から昭和35年に77歳で亡くなるまでの約40年間に渡り登場している。仕事関連のやりとりが主な内容だが、徐々に高岡の個人的な動向も記述されるようになり、高岡が木山神社に参詣したことがわかる記述は、解説されたものの中からだけでも152件にのぼる（写真3・資料1）。日記の記述からは、高岡の人物が窺えるものもある。例えば、昭和15年5月24日「高岡君来荘 善直君無事帰還ニ付木山に御礼詣候ト」があり、高岡虎市の息子が太平洋戦争から無事帰って来たことへのお礼を言いに参詣している。昭和15年は、高岡が木山へ参詣した回数が14回と他年と比べ群を抜いている。また、前後の年も例年より回数が多く無事に歸ることを祈念していたと思われる。また、昭和28年7月13日「高岡君来荘 病夫人归臼最後が近キ模様ヨリ一週間山口医師/診断ヤ□□件付 嘘ス □□木山行キ予定也」昭和28年7月25日「□ド品 葬儀費ナ十三万円ヲ約シト 明朝木山へ行ク」昭和28年7月26日「今夕木山上ル」では、高岡の妻が病気になり明日をも知れない状態の中、回復祈願に木山へ参詣する様子が窺える。

さらに、昭和32年6月30日「高岡君来談 上横

野自宅火事ヨリカ幸ニ早ク見大事ニ付由比ノ礼漸ニ木山へ参詣帰津セリ、昭和32年12月26日「高岡君来荘 長女ノ知□□君□ノ大手術ヲ受キ本日七日ニカクノ間木山詣リ他ニ□氣毒モ恐ケ」など、火事になりかけたり、長女が大手術を受けるなど困難に陥った際は必ず参詣している。晩年の高岡は、心臓を患っていて体調不良の時期が続くが木山詣を止めることはなく、ついには昭和34年の狛犬奉納へとながった。さらに最晩年には、昭和35年4月23日「高岡君来荘 二十七日木山建碑ヨリカ」、昭和35年4月29日「高岡君来荘 木山寺碑二十七日ニ建立シ列ト木山帰津 休養モト」とあり、木山寺へも碑を献じていることが分かる。大変、信心深い人物であったと思われる。

おわりに

今回は、狛犬を台座だけでなく、日記からも見ることで別の視点から考察した。50年間日参と書かれてはあるが、実際どのように50年間通ったのかは、台座からだけでは読み取れない。日記には、時代背景や参詣の様子などが書かれており、狛犬が奉納された時代をリアルに感じることができた。

小稿を書くにあたって、岩本えり子氏、木山神社の関係者にお世話になった。末筆ながら記して御礼申し上げます。

（資料1）『安黒一枝の日記』 大正10年～昭和35年

大正10年12月13日	高岡君木山神社より帰津木山及落合二カ所に竹器販売店を紹介てくれる。
大正10年12月14日	朝 高岡君来荘 木山神社に札上贈
大正14年9月20日	高岡君 本日本山神社へ参詣明朝帰津の旨 言使あり
大正15年6月30日	香山・高岡の両君木山詣?
大正15年11月15日	高岡君来荘 木山神社へ電話布設寄付の件
昭和4年1月20日	高岡君 木山 甲斐蓬太郎君同伴来荘
昭和4年6月3日	高岡君来荘 因幡山林の件付 今夕木山へ参詣明日帰津の旨
昭和4年7月13日	夜分 高岡君來訪 雜談 明朝木山詣 夕方帰津とのことなり
昭和4年7月14日	高岡君 本日 木山詣
昭和4年7月15日	高岡君 木山より帰津
昭和4年9月13日	木山神社宮司 甲斐蓬太郎君來訪 社務所改築寄付の件
昭和5年2月19日	高岡君来荘 昨夜終列車尔帰津したり迪 木山詣
昭和5年5月4日	高岡君等の一一行 今夕木山より帰津/由也
昭和5年7月12日	本日本山参籠の約ありしも高岡先達来津尔起為免取止免 棋戯

昭和5年7月16日 朝六時起床 高岡 龍門君同伴七時三十分発尔^テ木山神社参詣 大暑口、難く途中三回休憩十一時山上尔到達 木山神社及び木山寺へ参詣 木山寺尔至り高岡君の紹介尔依り和尚会見 宝物雪舟幅其他観覧 昼食を3時二時過ぎ 甲口老先生訪問初対面也 当□□蓬太郎君も来会す^ル 夕食の饗応尔アツク懇談数刻 本日帰津预定ノ処 蔵免られて遂尔一泊一時ころ迄老先生と雑談 他諸君 勤戦 夜を徹したる模様也 老杉鬱蒼天尔直立し莊嚴の觀あり山上の涼味可掬 一時頃 快眠を貪る

昭和5年7月17日 朝七時起床 九時頃朝食 蓬太郎君來^カ 10時出発 下山十一時三十分落合発一時帰津 夕方高岡君來^カ

昭和5年9月27日 高岡君來^カ 午后 高岡君木山へ参詣^{ヨリ}

昭和6年3月7日 高岡君來^カ 今夜 木山村会陽へ参詣春の由なり

昭和6年3月10日 高岡君來^カ 木山より本日帰津志たり迪 夕方 辞去

昭和6年3月30日 高岡君 昨夜 木山寺より帰津したり迪來^カ

昭和6年5月20日 高岡君來^カ 木山寺 和尚同伴 夕食を共爾春

昭和6年6月21日 10時過 高岡君來^カ (木山より帰津)

昭和6年10月2日 高岡君來^カ 午后出発 山口君同伴木山へ赴く迪

昭和6年10月4日 高岡君來^カ 木山より昨夜帰津セ^ル

昭和7年1月12日 高岡君來^カ 同君ハ午後 木山詣で明夕帰津^ヲ答

昭和7年2月13日 三時 高岡君來^カ 木山よりの帰途

昭和7年4月5日 高岡君有り 木山詣り明日帰津^ヲ答

昭和7年6月5日 高岡君來^カ 同君木山詣で夕刻帰津^ヲ迪

昭和7年10月23日 夕方 高岡君木山より帰津 会食

昭和7年11月9日 高岡君來^カ 約上書調印□□春 甲斐蓬太郎君二名來^カ 木山神社ニ建築寄付金ニ
聞參る件不取敢金 百円也口幅

昭和7年11月26日 高岡君來^カ 本日本山詣り明夕帰津^ヲ由

昭和7年11月28日 高岡君來^カ 高岡君木山より帰津來^カ

昭和8年1月6日 高岡君 木山より帰津來^カ

昭和8年2月17日 高岡君來^カ 木山寺会陽 神木持參 夕食^ヲ共春

昭和8年6月25日 十一時頃 高岡君來^カ 今朝木山より帰津

昭和8年8月20日 本日 甲斐老人 葬儀予定ノ処^ヲ高岡君へ托し失礼

昭和8年8月21日 高岡君 夕刻 木山より帰津

昭和9年1月31日 高岡君來^カ 本日本山詣 昨夕帰津^ヲ由

昭和9年3月6日 高岡君來^カ 木山寺会陽へ參り帰途也

昭和12年2月28日 高岡君來^カ 晟^{ヨリ}木山寺会陽へ参詣來月三日迄^ニ帰津さるとの事

昭和12年3月4日 高岡君 木山^{ヨリ}帰津來^カ 風邪ニ^ハ閉口シタリ

昭和12年7月16日 高岡君來^カ 昨夕木山^{ヨリ}帰津^ヲ行^ク、云々

昭和12年10月19日 高岡君 夕刻 木山院^{ヨリ}明後日帰津^ヲ事

昭和13年1月5日 十時 高岡君來^カ 本日本山詣^ア明日着

昭和13年2月6日 高岡君來^カ □□木山へ^{ヨリ}明夕帰津する迪

昭和13年3月6日 十時過ぎ 高岡君來^カ 一昨日來木山参詣昨夜帰津^ヲ行^クテ 0時半辞去

昭和13年4月26日 高岡君來^カ 昨夜 木山^{ヨリ}帰津セ^ル

昭和13年4月30日 高岡君 木山へ明日帰津^ヲシ

昭和 13 年 8 月 17 日 高岡君来荘 木山へ齋行 本日帰津沙列行
昭和 13 年 10 月 22 日 高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津沙列行
昭和 13 年 12 月 31 日 高岡君来荘 一昨日木山へ齋の昨夜帰津
昭和 14 年 1 月 3 日 高岡君来荘 明日 木山参詣 明後日夕方迄帰津/寄ト
昭和 14 年 1 月 7 日 高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰津セリ行
昭和 14 年 4 月 30 日 高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰津沙列行
昭和 14 年 5 月 14 日 高岡君来荘 昨夕 木山ヨリ帰津沙列行
昭和 14 年 7 月 15 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰途カ
昭和 14 年 8 月 7 日 高岡君来荘 木山へ参詣 昨朝一番ニテ帰津沙列行□へ帰村
昭和 14 年 8 月 18 日 高岡君来荘 本夜 木山へ詣セリ
昭和 14 年 11 月 14 日 高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津沙列行
昭和 14 年 12 月 1 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰津沙列行
昭和 15 年 1 月 2 日 高岡君来荘 木山ヨリ
昭和 15 年 1 月 5 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰り列行來荘
昭和 15 年 1 月 18 日 高岡君来荘 今朝 木山ヨリ帰津沙列行
昭和 15 年 1 月 22 日 高岡君ヨリ電話 三時頃 木山詣デ 明後日帰津沙列旨
昭和 15 年 2 月 2 日 高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰津沙列行
昭和 15 年 2 月 24 日 高岡君ヨリ今夜木山内詣デ 26 日夜分帰津/寄
昭和 15 年 3 月 6 日 高岡君来荘 過刻出津沙列行本日本山詣日明朝帰津/由
昭和 15 年 3 月 18 日 高岡君来荘 今朝木山より帰津沙列行
昭和 15 年 5 月 3 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰津來荘
昭和 15 年 5 月 24 日 高岡君来荘 善直君無事帰還ニテ木山に御礼詣スルト
昭和 15 年 7 月 20 日 高岡君来荘 満州畠井、本夕木山詣 明日帰津/寄
昭和 15 年 7 月 30 日 高岡君 明朝木山詣デ 及トノト
昭和 15 年 8 月 26 日 高岡君来荘 午后木山へ上り明朝帰津ノ事
昭和 15 年 8 月 27 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰り列行夕刻迄雑談
昭和 15 年 10 月 3 日 高岡君来荘 昨日本山詣/過刻帰津沙列行夕刻帰村
昭和 15 年 10 月 23 日 高岡君来荘 木山ヨリ昨夕帰津沙列行
昭和 16 年 6 月 1 日 夕方 高岡君木山ヨリ帰途立ヨリ
昭和 16 年 6 月 6 日 本日 木山ヨリ帰歸沙列行
昭和 16 年 9 月 11 日 夕方 高岡君来荘木山ヨリ帰津沙列行
昭和 16 年 10 月 19 日 高岡君来荘 木山秋祭ニ參詣スルト
昭和 16 年 10 月 22 日 高岡君来荘 本日本山ヨリ帰り列行
昭和 16 年 11 月 20 日 高岡君来荘 木山戻リサルト
昭和 16 年 11 月 23 日 高岡君来荘 木山ヨリ唯今帰津沙列行來荘ニ就キ
昭和 17 年 1 月 10 日 高岡君来荘 木山ヨリ過刻帰津沙列行木山寺ヨリ贈ラ
昭和 17 年 1 月 29 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰津 来月四日 高岡君木山詣ノ序ヨリ以テ調査行貰コトニス
昭和 17 年 2 月 4 日 高岡善真君 神戸岡本へ行外行來荘 次テ高岡市君木山参詣/途次立ヨリ
昭和 17 年 2 月 7 日 高岡君来荘 高岡君木山ヨリ帰途立ヨリ
昭和 17 年 2 月 19 日 高岡君来荘 木山入山/帰途
昭和 17 年 3 月 4 日 高岡君来荘 午后木山会陽ニ參詣スルト
昭和 17 年 3 月 26 日 高岡君木山ヨリ帰途立ヨリ

昭和 17 年 4 月 10 日 高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰リ列テ
昭和 17 年 6 月 13 日 高岡君来荘 木山ヘ行外テ
昭和 17 年 6 月 15 日 高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰津シ列テ
昭和 17 年 7 月 5 日 高岡君來訪 夕刻木山ヘ詣フ
昭和 17 年 9 月 23 日 高岡君来荘 明日本山ヘ詣フ
昭和 17 年 9 月 25 日 高岡君来荘 木山戻リ
昭和 17 年 10 月 23 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰途
昭和 17 年 12 月 5 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰途
(昭和 18 年～昭和 24 年までは未解読)
昭和 25 年 1 月 17 日 高岡君來訪 木山ノ帰途
昭和 25 年 3 月 12 日 高岡君來談 木山会陽引きツタキ昨日日垣
昭和 25 年 5 月 31 日 高岡君來談 木山ノ帰途
昭和 25 年 7 月 16 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰還
昭和 26 年 2 月 26 日 高岡君来荘 木山会陽帰途 雜談
昭和 27 年 6 月 12 日 高岡君來談 昨日本山ハ本朝帰津セト
昭和 28 年 3 月 3 日 高岡君來談 夕刻 木山会陽ヘ参詣スル行云々
昭和 28 年 3 月 8 日 高岡君来荘 昨日本山ヨリ帰津
昭和 28 年 7 月 13 日 高岡君来荘 病夫人召白最後が近郊模様コ一週間山口医師ノ診断ヤ□□/件朴^ス 啓
□□ハ木山行ヰ/予定也ト
昭和 28 年 7 月 25 日 □ド品 埋儀費付十三万円ヲ要沙列ト 明朝木山ヘ行外
昭和 28 年 7 月 26 日 今夕木山上野
昭和 28 年 8 月 8 日 高岡君来荘 □□川ニヰ□骨二本打ツ由 明朝木山ヘ上ヨシ
昭和 29 年 2 月 22 日 高岡君来荘 今日明日木山会陽
昭和 29 年 5 月 7 日 高岡君来荘 木山に上リ□□
昭和 29 年 5 月 29 日 高岡君再訪 明日は木山行き
昭和 29 年 11 月 30 日 高岡君来荘 木山□新□来津
昭和 29 年 12 月 2 日 高岡君来荘 木山寺□□ヘ昨日午後三時離津□山去る由
昭和 30 年 1 月 31 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰津 来月木山会陽ヘ要領ヲ得サレ
昭和 30 年 2 月 15 日 高岡君來談 木山カ昨夕帰津シ列テ
昭和 30 年 7 月 11 日 高岡君来荘 前月末 病氣□本月四日墮リ□快 昨日 木山ヘ参詣スル予定也ト
昭和 30 年 7 月 17 日 高岡君来荘 木山詣ズ五日間滞留帰津□□□
昭和 30 年 9 月 22 日 高岡君^ヲ訪老人一昨日本山^ヲ過刻帰リ外
昭和 30 年 9 月 25 日 高岡君来荘 藍瓈大幅ハ木山ヘ向付由
昭和 30 年 10 月 11 日 高岡君来荘 木山ヘ参詣行居ツ由 色々コマ話ツル
昭和 31 年 3 月 8 日 高岡君来荘 □日来 真賀温泉 湯原五日間 ルが三月一日 木山会陽ニ立会昨
日帰津シ由
昭和 31 年 4 月 10 日 高岡君來談 十二日本山ヘ行外トコ 木山寺□宿/唯けト
昭和 31 年 4 月 18 日 高岡君来荘 木山寺落慶経過
昭和 31 年 5 月 7 日 高岡君来荘 木山ヘ詣タ 昨夕来娘トコ^ハ帰津シ外
昭和 31 年 10 月 16 日 高岡君来荘 来ニ二十日 木山秋祭コ赤染君ガツ
昭和 32 年 2 月 21 日 高岡君来荘 木山会陽ヨリ昨夕帰津シ列テ
昭和 32 年 3 月 14 日 夕景 高岡君来荘 一昨日本山ヘ参詣

昭和 32 年 3 月 30 日	高岡君来荘 昨日本山へ過刻シ外
昭和 32 年 4 月 21 日	高岡君木山詣テ
昭和 32 年 6 月 30 日	高岡君来談 上横野自宅火事ニカリ幸ニ早き発見大事ニカリ由ヒノ礼漸ニ木山へ参詣候津セト
昭和 32 年 8 月 7 日	高岡君来荘 勝山ヨリ木山詣テ昨夜帰津シ外ト
昭和 32 年 9 月 16 日	高岡君来談 昨朝出津シ列行松材取計第 1 回分取□無事終了シ由 明朝ハ木山ハ松材壳妙シ
昭和 32 年 12 月 26 日	高岡君来荘 長女ノ知□□君□ノ大手刀ヲ受け本日七日計約ノ間木山詣リ他ニ是口氣毒ヲ思ケ
昭和 33 年 2 月 23 日	高岡君来荘 木山神社ヘ御籠りル時マガ温泉へ三泊昨夕帰津シテ
昭和 33 年 3 月 12 日	高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津シ列行
昭和 33 年 6 月 19 日	高岡君来荘 木山ヨリ真賀ヘ漸々夕帰津シ外
昭和 34 年 2 月 4 日	高岡君来荘 昨日本山詣ラタ木山寺/御木札持參行ラル
昭和 34 年 7 月 13 日	高岡君来荘 木山/夏祭ハ參詣シ外
昭和 34 年 7 月 16 日	高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰ツシ外
昭和 34 年 7 月 31 日	高岡君来荘 木山神社奉獻マ犬/名文ヲ据ヘツタ之々
昭和 34 年 8 月 9 日	午後 高岡君来荘 十六日落合ヘ赴ニ奉納/□建□シ外
昭和 34 年 10 月 6 日	高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津シ外本日帰村
昭和 34 年 10 月 16 日	高岡君来荘 来ニ二十日本山秋祭ニ赤染君ガケル
昭和 34 年 10 月 17 日	高岡君本日 木山行
昭和 34 年 10 月 21 日	高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津
昭和 34 年 12 月 6 日	高岡君来荘 昨日本山参リシ外
昭和 34 年 12 月 20 日	高岡君来荘 昨日本山ハケタ由
昭和 35 年 1 月 10 日	高岡君来荘 一昨日木山詣テ昨日帰津シ外
昭和 35 年 1 月 30 日	高岡君来荘 □□□木山ハ詣シ列行本夕帰村
昭和 35 年 3 月 26 日	高岡君来荘 后三時乃車テ木山ハ行シ
昭和 35 年 3 月 29 日	高岡君来荘 木山寺昨日帰津シ外
昭和 35 年 4 月 23 日	高岡君来荘 二十七日本山建碑スルハシ
昭和 35 年 4 月 29 日	高岡君来荘 木山寺碑ニ建立シ外本日帰津 休養スル
昭和 35 年 5 月 29 日	高岡君来荘 明日本山ハ
昭和 35 年 6 月 22 日	高岡君今朝遂ニ死去□照電ニ接シ由・・・云々

文献

(註 1)『岡山県人物事典』山陽新聞社 1994

(註 2) 岩本えり子「大谷土地区画事業の一側面～安黒一枝の日記から（1）」『年報津山赤生の里第 16 号』2009

印 刷 仕 様

紙 質 表紙	レザッククリーム	175kg
本文	ニューエイジ	90kg
D T P O S	Windows 7 Professional	
DTP	Adobe Indesign CS6	
図版作成	Adobe Illustrator CS6	
写真調整	Adobe Photoshop CS6	
Scanning	35mm・6×7film	EPSON GT-X 970
	図面類	GRAPHTEC IMAGESCANNER TS7000
使用 Font	OpenType	基本3書体（小塚ゴシックPro、小塚明朝Pro、MSゴシック）
画像原稿	階調画像線数は175線	
印 刷	印刷所へは、PDF X-1a (2001) で書き出して入稿	

年報 津山弥生の里 第22号（平成25年度）

2015年3月31日発行

発行 津山市教育委員会生涯学習部文化課
津山弥生の里文化財センター

〒708-0824

岡山県津山市沼600-1

TEL0868-24-8413 FAX0868-24-8414

印刷 (有)弘文社
